

研究活動報告

List of research activities

(2008年1月1日～2008年12月31日)

ここに収録された題目及びその概要は、学内研究者の発表したもののうち、2008年1月1日より2008年12月31日迄の期間に刊行されたものに限り、論文の性質、発表機関などには一切制限を加えず、すべて規定の用紙で提供された原稿のまま掲載した。なお、掲載順序は、提出順とした。

原田 睦巳

〈原著論文〉

鉄棒における「前方浮腰回転ひねり倒立（アドラーひねり倒立）の技術に関するモルフォロギー的一考察

著者：原田睦巳，斎藤良宏，鹿島丈博，冨田洋之，加納實 順天堂大学スポーツ健康科学研究第12号：11～21，2008. 3

アドラーひねり倒立の有効な技術をモルフォロギー的観点から考察した結果、真下にぶら下がった局面、離手局面において大きな差が見られた。また、離手後手を移動させる技術が有効な技術であることを提言した。

つり輪における「後方かかえ込み2回宙返り懸垂（グチョギー）の技術に関する研究

著者：斎藤良宏，加納 實，原田睦巳 体操競技・器械運動研究第16号：17～28，2008. 3

グチョギーの有効な技術を比較考察した結果、「腹屈頭位」で回転を行う方が有効であることを提言した。回転時及び、懸垂への移行時における身体と輪の位置関係についても有効な技術を提言した。

器械運動の学習目標に関する研究～小学校高学年児童を対象として～

著者：浦井孝夫，楠戸辰彦，原田睦巳 了徳寺大学研究紀要第2号：55～67，2008. 3

学習指導要領における「運動そのものの目標」に焦点を当て、器械運動の特性から「運動感性」を目標に加え、学習目標の達成度合いを調査した結果、小学校の段階では困難であることが示唆された。

〈講演〉

外国人留学生と日本人学生合同セミナー

(独)日本学生支援機構 2008. 2

北見市体操協会40周年記念講演

北見市体操協会 2008. 3

濱野 光之

【原著論文】

身長および跳躍能力がバレーボールプレイヤーの最高到達点に及ぼす影響

濱野光之，小山桂史，勝俣康之 順天堂大学スポーツ健康科学研究12号：22～28，2008. 3

要旨

バレーボール選手の身長と跳躍高との間には反動動作の有無に関わらずそれぞれ負の相関が示された。しかし、身長に跳躍高を加えた最高到達高との間は反動動作の有無に関わらず身長と正の相関関係にあった。このことから、選手のスカウティングやセレクションにおいては、身長の高い者を選択することが有効であることが明らかになった。

日本人大学男子バレーボール選手におけるコーディネーショントレーニングの有効性

濱野光之，濱野礼奈 北京体育大学学报（中国文）Vol. 31, No. 3, 411～413, 2008. 3

要旨

バレーボール競技者を対象として、コーディネーショントレーニングがバレーボールに必要な体力要素および競技成績に与える影響を検証することを目的とした。結果、バレーボール選手に対してのコーディネーショントレーニングは、筋と神経の協調性が高まり、バレーボールの動きにつなげるということをねらいとして行うことが有効であった。

小林 義雄

【著書】

武術の動作で筋トレだ！—武術を用いた高齢者のトレーニング— 河合祥雄, 小林義雄

「武道的トレーニング」の[PART4]において, 高齢者のトレーニングとして, 日本の武術(空手, 剣術)を用いたトレーニング方法を提案し, その内容と効果を紹介した。剣術においては, 良い姿勢での「足さばき」を導入とし, 最終課題を「新聞紙を木刀で斬る」ことに設定した。竹刀剣道ではなく, 剣術の型稽古を採用した理由についても言及した。月刊誌『コーチング・クリニック』, 27-30, 2008, 10月号

青木 和浩

〈学術論文〉

陸上競技400 m 選手における上肢及び下肢の無機的能力と競技成績の関係 著者: 平島和弥, 青木和浩, 河村剛光, 吉儀 宏. フェューチャー・アスレティック 6: 1~7, 2008. 3

陸上競技400 m 選手を対象に上肢と下肢の無機的能力と400 m の競技成績の関係を検討した。その結果, 下肢の無機的能力と競技成績には有意な関連が認められた。

Developments of a baseball specific battery of tests and a testing protocol for college baseball players. 著者: Y. Kohmura, K. Aoki, H. Yoshigi, K. Sakuraba, T. Yanagiya. The Journal of Strength and Conditioning Research Vol. 22 (4): 1051~1058, 2008. 7

大学野球選手におけるフィールドテスト結果と指導者の競技力評価との関係を検討した。守備能力と遠投, 走塁能力とTテスト(敏捷性)・ベースランニングに有意な関係が認められた。

「体づくり運動」に関連する授業内容についての意識調査—体育系大学生を対象として— 著者: 青木和浩, 河村剛光. 体操研究 5: 1~6, 2008. 7

体育系大学生を対象に「体づくり運動」に関わる運動内容を検討した。その結果, 「調整力」や「体ほぐしの運動」は運動内容が多岐にわたっており, 教材として分類化する必要性が伺われた。

黄色コンタクトレンズの使用と大学野球選手の視機能及び打撃能力 著者: 河村剛光, 村上茂樹, 吉儀 宏, 桜庭景植, 青木和浩. 臨床スポーツ医学会誌 16(3): 414~419, 2008. 8

大学野球選手を対象に黄色コンタクトレンズの使用が視機能及び打撃能力に与える影響について検討した。その結果, 黄色コンタクトレンズでも視機能や打撃能力に悪影響を及ぼさないことが明らかになった。

〈学会発表〉

大学体育実技の教材としてのニュースポーツの運動特性—運動強度, 感情の変化, 運動の楽しさに着目して—: 中丸信吾, 池畑亜由美, 木村博人, 青木和浩. 日本スポーツ方法学会第19回大会: 2008. 3

上級走幅跳選手におけるパフォーマンスに影響を与える質的要因と量的要因—コーチの他者観察内容とバイオメカニクス的分析内容から—: 青山清英, 越川一紀, 青木和浩, 森長正樹, 吉田孝久, 尾縣 貢. 日本スポーツ方法学会第19回大会: 2008. 3

足関節における受動的底屈トルクがスプリント走能力に及ぼす影響: 柳谷登志雄, 宮本 彩, 小山桂史, 渡辺圭佑, 青木和浩, 越川一紀, 佐久間和彦. 日本バイオメカニクス学会第20回大会: 2008. 8

疾走能力および跳躍能力における高校生と大学生との比較: 宮本 彩, 佐久間和彦, 越川一紀, 青木和浩, 柳谷登志雄. 日本バイオメカニクス学会第20回大会: 2008. 8

短距離競技者を対象としたトレーニング後のWGH摂取の検討: 青木和浩, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松岡由記, 佐久間和彦, 澤木啓祐. 日本陸上競技学会第7回大会: 2008. 8

走高跳競技者における各種垂直跳の特徴について: 中丸信吾, 青木和浩, 越川一紀, 金子今朝秋. 日本陸上競技学会第7回大会: 2008. 8

ハンドボール競技のシュート・ボールスピードに関わる投能力とトレーニング効果: 山田一典, 青木和浩, 中丸信吾, 伊藤 章. 日本体育学会第59回大会: 2008. 9

ニュースポーツの運動特性～運動強度, 感情の変化, 運動の楽しさに着目して～: 中丸信吾, 池畑亜由美, 木村博人, 青木和浩. 日本体育学会第59回大会: 2008. 9

「シスチン・テアニンサプリメント」の経口摂取による陸上競技・長距離駅伝夏期強化合宿時の免疫状態への影響: 村上茂樹, 鯉川なつえ, 仲村 明, 青木和浩, 吉儀宏, 澤木啓祐, 栗原重一, 大谷 勝. 日本臨床スポーツ医学会第19回学術集会: 2008. 11

100 K 競歩における WGH 摂取が筋組織障害等に及ぼす影響: 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松尾彰文, 青木和浩, 松岡由記, 長岡 功, 澤木啓祐. 日本臨床スポーツ医学会第19回学術集会: 2008. 11

中学生・高校生の視力と矯正方法, 並びに動体視力に関する調査: 河村剛光, 吉儀 宏, 桜庭景植, 青木和浩, 戸塚涼子. 日本臨床スポーツ医学会第19回学術集会: 2008. 11

廣瀬 伸良

【原著】

1. Management and Follow-up survey of *Trichophyton tonsurans* infection in a university Judo club

Nobuyoshi Hirose, Suganami Morio, Yumi Shiraki, Masataro Hiruma, Hideoki Ogawa

Mycoses 51: 243-247, 2008

The prevalence of *Trichophyton tonsurans* infection of the scalp in members of a university judo club was investigated over a 3.5-year period using a questionnaire survey and an assay based on fungal culture by the hairbrush method. Our findings indicate that the spread of *Trichophyton tonsurans* infection in sports clubs can be controlled by regular mass screening examination, therapy, and measures at regular intervals to prevent the infection.

2. 全日本柔道連盟登録団体を対象にした *Trichophyton tonsurans* 感染症に関するアンケート調査

廣瀬伸良, 菅波盛雄, 白木祐美, 比留間政太郎

日本医真菌学会雑誌 49巻3号197-203, 2008

本研究は全日本柔道連盟に登録する全ての柔道競技団体(10097団体) 指導者にアンケート用紙を配布し, トンズラノス感染症の罹患状況を調査した. 本感染症は小・中学の

低年齢層にも発症しており, 今後の感染拡大が危惧される. 競技(柔道)連盟における全国的な治療, 予防の啓発や指導者と医療機関との連携が急務であると考え.

3. Commonly affected body sites in 92 Japanese combat sports participants with *Trichophyton tonsurans* infection

Yumi Shiraki, Masataro Hiruma, Nobuyoshi Hirose, Shigaku Ikeda

Mycoses Early View, Date: September 2008

Outbreaks of *Trichophyton tonsurans* infection constitute one of the serious problems among combat sports practitioners in Japan. To facilitate the diagnosis of individuals at risk, we undertook a study to determine which body sites are most commonly infected. Tinea corporis was observed on the forehead, auricles, nape of the neck, bilateral shoulders, left side of the upper chest, both elbows, back of the left hand to the wrist and both knees. Tinea capitis was most common in the occipitotemporal region at the hairline and in the temporal and frontal regions, at both auricles.

4. 大学柔道選手の競技内容と心理的因子の関連性

前川直也, 緒方和男, 江田茂行, 菅波盛雄, 廣瀬伸良他
新潟県体育学研究 第26巻

大学柔道選手心理的構成因子と競技内容の関連性の検証を試みた. DIPCA, TSMI の160名のデータを因子分析した結果, 「挑戦意欲」, 「自制心」, 「戦術行動能力」, 「闘志・勝利意欲」の4因子が抽出された. その因子と競技内容の関連性では, 「自制心」と総施技における相関が1%水準で認められた. また, 試合において技効力が高い施技においては, 「戦術行動能力」との相関が5%水準で有意に相関が高いことが認められた. さらに, 試合において技効力が中程度の施技においては, 「闘志・勝利意欲」と5%水準で有意に相関が高いことが認められた.

【Invitation Lecture】

1. Recent Trend of *Trichophyton tonsurans* Infection in Japanese Judo Players

Nobuyoshi Hirose

International Judo Symposium—Medical and Scientific Aspect— pp1-2: 2008

We, research group of *T. tonsurans* infection, have started to study its infection rates of Judo clubs by hair brush culture method since 2002. The results of this study showed its infection national widely spread among junior high school, high

school and university judo clubs. Also we have been studied the present status of this disease, accurate examination, treatment and effective prevention.

In this lecture, I introduced the many researches and reports of the *T. tonsurans* infection and recent trend of this disease in Japan.

【学会発表】

1. 大学柔道選手の攻撃性に関する研究

前川直也, 江田茂行, 山本真己, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充

武道学研究 第41巻別冊 p1: 2008

全日本学生柔道連盟に所属する大学生411名に攻撃性に関する質問紙調査をおこない, 大学柔道選手の日常生活および競技場面での攻撃性の構造を明らかにし, また男女別の検討を行った。男子選手は勝負に対する執着心から日常生活および競技場面での攻撃性がみられることが予想された。女子選手では失敗不安が強く, それを回避するために日常生活, 競技場面で攻撃性が見られる傾向があった。

2. 柔道「投の形」の評価に関する研究

金持拓身, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 前川直也

武道学研究 第41巻別冊 p29: 2008

近年, 柔道の「形」競技会が多く開催されてきている。しかしながら, それらの大会には確立された技能評価, 審査規定, 採点規則などはなく, 審査員の独自の視点にゆだねられている現状である。本研究では映像による形の演武を審査員に評価させ, 審査員間の類似性および審査員の評価の観点を明らかにした。

3. 柔道競技における心理的競技能力とコーチングに関する研究～戦績別による比較検討～

松平憲彦, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 前川直也

武道学研究 第41巻別冊 p64: 2008

大学柔道選手206名を対象に実施したアンケートから, 競技能力の差と指導者からのコーチングの影響との関連をみた。高競技レベル群へのコーチングには「競技意欲」獲得に努めると共に, 「自信」獲得の手助けとして特に技術・戦術指導を中心にコーチングを行うことが重要であり, 低競技レベル群へのコーチングには「競技意欲」向上のため, 「自信」獲得の方法をコーチングに依存する傾向があることが示唆された。

4. An Investigation of *T. tonsurans* Infection in Judo athletes registered at the University Judo Federation of Tokyo

Nobuyoshi Hirose, Morio Suganami

International Judo Symposium—Medical and Scientific Aspect— p3: 2008

We surveyed 902 individuals affiliated with Judo clubs in 21 universities and found 102 positive cases (11.3%). Males had a higher infection rate (95 cases; 12.6%) than females (7 cases; 4.7%). Ninety individuals (88.2%) with positive hairbrush-culture results reported a history of tinea corporis, and 88 individuals (86.3%) with positive hairbrush-culture results considered themselves “asymptomatic” at the time of the examination.

広沢 正孝

【著書】

1) 広沢正孝: 強迫症状. 加藤敏ほか編, 精神科対話, pp265-281, 弘文堂, 東京, 2008.

2) 広沢正孝: うつ病. 富野康日己, 望月正隆編, 疾患と薬物治療—知っておきたい common diseases, pp308-310, 医歯薬出版, 東京, 2008.

【論文】

1) 山田泰行, 水野基樹, 広沢正孝, 小泉智恵, 酒井一博: 家庭から仕事へのネガティブ・スピルオーバー尺度は看護師の健康状態まで正しく評価するか? 産業保健人間工学研究, 9; 14-22, 2008

2) 広沢郁子, 広沢正孝, 市川宏伸: 小児統合失調症とアスペルガー症候群. 精神科治療学, 23; 155-164, 2008.

3) 松山 毅, 岩崎 香, 広沢正孝: 順天堂大学スポーツ健康科学部における精神保健福祉援助実習システムに関する検討. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 11; 43-48, 2008.

4) Sugiura, M., Hirosawa, M., Nishi, Y., Yamada, Y., Mizuno, M., Tanaka, S.: Development of a Japanese Version of the Cambridge Depersonalization Scale and Application to Japanese University Students. 平成19年度順天堂精神医学研究所紀要, pp93-101, 順天堂精神医学研究所.

5) 中村恭子, 広沢正孝, 岩崎 香, 古川育美, 井原裕, 石井正紀: 精神科デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンスアクティビティの試み—気分の変化と症状

評価に及ぼす影響について. 病院・地域精神医学, 168; 153-155, 2008.

6) Yamada Y, Mizuno M, Sugiura M, Tanaka S, Mizuno Y, Yanagiya T, Hirosawa M: **Bus Driver's Mental Condition and its Relation to Bus Passengers' Accidents—Focusing on the Psychological Stress Concept—**. Journal of Human Ergology, 37; 1-11, 2008.

7) 広沢正孝: **統合失調症と広汎性発達障害**. 臨床精神医学, 38; 1515-1523, 2008.

吉村 雅文

論文

サッカー選手の体力評価

宮森隆行, 吉村雅文, 青葉幸洋

Evaluation of the Physical Strength of Soccer Players

T. Miyamori, M. Yoshimura, Y. Aoba

理学療法学 23(5): 685-690, 2008

大友 泰司

別冊歴史読本『間違いだらけの歴史常識』新人物往来社 H20. 8. 14発行, 担当は源平時代 P64-P79までの16項目.

2-3の例を挙げると「平重盛は温厚な仁君ではない・平家のすべてが壇ノ浦で滅亡したのではない」など.

廣津 信義

論文

経営効率分析法(DEA)を利用した野球チームのラインナップ選定のための一手法 —北京五輪野球日本代表候補選手を例として—. 廣津信義, 上田 徹. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 12, 1-10 (2008).

野球の攻撃について, DEA の観点からみて効率的な選手の数と得点の期待値との関係を求めることで最適なラインナップを提示する手法を例示した.

国際学会発表

An evaluation of diversity in DEA —An example of baseball players—. N. Hirotsu, T. Ueda. DEA (Data Envelopment Analysis) Symposium 2008 (Tokyo). 平成20年2月19日. Proceedings of DEA Symposium 2008, 108-111 (2008).

DEA approach to selecting line-ups of a baseball team. N. Hirotsu, T. Ueda. 18th Triennial Conference of the International Federation of Operational Research Societies (Johannesburg). 平成20年7月15日. Book of Abstract, 24 (2008).

Best strategies for formation changes in a soccer game based on game theory. N. Hirotsu. 7th International Symposium on Operations Research and its Applications (Lijiang). 平成20年11月1日. Program, 7 (2008).

国内学会発表

DEAにおける多様性の評価の試み —野球選手のデータを例として—. 廣津信義, 上田 徹. 2008年日本OR学会春季研究発表会(京都). 平成20年3月25日. 2008年日本OR学会春季研究発表会アブストラクト集, 104-105 (2008).

野球の最適打順再考—得点の期待値を最大とする打順が最強だろうか—. 廣津信義. 2008年日本OR学会秋季研究発表会(札幌). 平成20年9月11日. 2008年日本OR学会秋季研究発表会アブストラクト集, 226-227 (2008).

その他

翻訳「複数ベンダー・サービスのためのパートナー交渉における意思決定支援」. 廣津信義. オペレーションズ・リサーチ, 53(3), 139-143 (2008).

研究成果報告書「ゲーム理論を応用したバレーボール戦術ソフトの開発」. 廣津信義, 伊藤雅充, 宮地 力, 濱野光之, 田口 東. 科学研究費補助金(基盤研究(C))課題番号17510144) 成果報告書 (2008).

平成17~19年度の科研費の研究成果を報告書としてまとめた.

内藤 久士

図書

内藤久士, 小倉裕司. **未来のトレーニング: 温熱負荷とトレーニング**. pp133-142. 安部 孝編. トレーニング科学 最新エビデンス. 講談社サイエンティフィック. (2008)

内藤久士. **小動物を用いた運動モデル. 老化・老年病研究のための実験動物ガイドブック I. 基礎老化モデル編**. pp58-64. 日本基礎老化学会編. アドスリー. (2008)

内藤久士. 日本人の体力の現状とその課題. 生涯にわたる健康教育への招待. pp91-101. 国立教育政策研究所編: 東洋館出版. (2008)

論文等

Ogura Y, Naito H, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Katamoto S. **Alpha-actinin-3 levels increase concomitantly with fast fibers in rat soleus muscle.** 372: 584-588 (2008)

Saga N, Katamoto S, Naito H. **Effect of heat preconditioning by microwave hyperthermia on human skeletal muscle after eccentric exercise.** J. Sports Sci. Med. 7: 176-183 (2008)

Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Saga N, Ogura Y, Shiraishi M, Giombini A, Giovannini V, Katamoto S. **Effects of microwave hyperthermia at two different frequencies (434 and 2450 mhz) on human muscle temperature.** J. Sports Sci. Med. 7: 191-193 (2008)

Ogura Y, Naito H, Akin S, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Sugiura T, Powers S, Katamoto S, Demirel H. **Elevation of body temperature is essential factor for exercise-increased extracellular heat shock protein 72 level in rat plasma.** Am. J. Physiol. 288 (Regul Integr Comp Physiol): R1600-R1607 (2008)

芝口 翼, 杉浦崇夫, 古本 司, 井上恒志郎, 飯田義晴, 磯山智美, 内藤久士, 後藤勝正, 大森大二郎, 吉岡利忠. **長期間の Astaxanthin 摂取がサルコペニアに及ぼす影響.** 体力科学 57: 541-552 (2008)

綾部誠也, 熊原秀晃, 青木純一郎, 内藤久士, 形本静夫, 田中宏暁. **歩行率による中等度身体活動時間の評価.** 体力科学 57: 453-462 (2008)

小林裕幸, 内藤久士. **持久的トレーニングおよび加齢がラット横隔膜の熱ショックタンパク (Heat shock protein) 72の発現に及ぼす影響.** 順天堂医学 54: 176-183 (2008)

小林生海, 綾部誠也, 鈴木大地, 内藤久士, 青木純一郎. **オープンウォータ水泳の競技記録と有酸素性作業能の関連性.** 体力科学 57: 443-452 (2008)

専門誌・報告書等

内藤久士. **体力・運動能力調査報告書の意味するもの.** 体育の科学 58: 315-319 (2008)

内藤久士. **アスリート遺伝子は存在する.** 体力科学. 57: 47-51 (2008)

平成十九年度 **体力・運動能力調査報告書** (青木純一郎, 内藤久士, 関根紀子その他体育局担当官4名). 文部科学省 (2008)

国民の体力比較に関する日中共同研究(研究班員として) 平成19年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告書 (2008)

シンポジウム講演等

運動生理学から見た「子どもを元気にする運動」. 日本発育発達学会 第6回大会(福岡)シンポジウム. 平成20年3月16日

スポーツ競技の生理学. 生理学教育シンポジウム模擬授業. 第85回日本生理学会教育シンポジウム(東京). 平成20年3月26日

最近の子どもの体力・運動能力の現状と課題. 第142回日本体力医学会関東地方会シンポジウム(東京). 平成20年3月29日

アスリート遺伝子から見た一般高齢者の筋機能～介護予防への応用可能性～. 第8回日本抗加齢医学会総会シンポジウム(東京). 平成20年6月7日

国際(海外)学会発表

Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Tsuchihara K, Kakigi R, Ogura Y, Kurosaka M, Katamoto, S, Esumi H. **Effects of a lack of Snark on activity, heart rate, and fat and skeletal tissues in mice.** Experimental Biology 2008, San Diego, USA, 平成20年4月

Tsujikawa H, Ogura Y, Kurosaka M, Kakigi R, Naito H, Watanabe M, Katamoto S, Okada T. **Acute exercise-induced heat shock proteins do not protect heart from hypoxia-reoxygenation injury in adult rat.** Experimental Biology 2008, San Diego, USA, 平成20年4月

Ogura Y., Naito H., Ichinoseki-Sekine N., Kurosaka M., Kakigi R., Katamoto S.. **α -Actinin-3 increases concomitantly with skeletal muscle fast fibers in rat soleus muscle.** Experimental Biology 2008, San Diego, USA, 平成20年4月

Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Tsuchihara K, Kakigi R, Ogura Y, Kurosaka M, Katamoto S, Esumi H. **Enhanced voluntary running distance and suppressed obesity in Snark-deficient mice.** The American College of Sports Medicine 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, 平成20年5月, Medicine and Science in Sports and Exercise, 40: 5 supplement, S243, 2008.

Ogura Y, Naito H, Senay A, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Sugiura T, Katamoto S, Demirel H. A. **Elevation of body temperature is associated with exercise-induced extracellular heat shock protein 72 level in rat plasma.** The American College of Sports Medicine 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, 平成20年5月, Medicine and Science in Sports and Exercise, 40: 5 supplement, S429, 2008.

Ogura Y, Naito H, Katamoto S. **Adaptability of alpha-actinin-3 in skeletal muscle.** The 13th Annual Congress of the European College of Sport Science in Estoril, Portugal, 平成20年7月

Onishi T, Shimada K, Sumide T, Ohmura H, Kume A, Masaki Y, Fukao K, Sato H, Sunayama S, Naito H, Amano A, Daida H. **Impact of phase cardiac rehabilitation program on mortality in elderly patients with stable coronary artery disease.** The 13th Annual Congress of the European College of Sport Science in Estoril, Portugal, 平成20年7月

Saga N, Ogura Y, Sekine-Ichinoseki N, Naito H, Katamoto S. **Effect of post-exercise heat treatment on eccentric contraction-induced muscle damage and muscle soreness in older people.** The 13th Annual Congress of the European College of Sport Science in Estoril, Portugal, 平成20年7月

加納 實

[論文]

つり輪における「後方かかえ込み2回宙返り懸垂(グチョギー)」の回転技術に関する一考察

斎藤良宏, 加納 実, 原田睦巳

体操競技・器械運動研究 16: 17-28, (2008. 3)

グチョギーの技術解明を目的として実験的研究を行った。その結果、懸垂から「腹屈頭位」で引き上げ、回転時には輪を身体から遠くさばき、2回転目の宙返りの後半から輪を身体の後ろ(背面)に保持しながら懸垂前振りにつなげることが重要な技術であることが示唆された。

鉄棒における「前方浮腰回転ひねり倒立(アドラーひねり倒立)」の技術に関するモルフォロジー的一考察

原田睦巳, 斎藤良宏, 鹿島丈博, 富田洋之, 加納 實

順天堂大学スポーツ健康科学研究 12, 11-21, (2008. 3)

“原田睦巳の項を参照”

[講演]

いきいきセミナー「2倍楽しむ北京オリンピック」

柏市社会教育委員会主催: 柏市沼南公民館, (2008. 7)

オリンピック選手を育てる—スポーツ指導者の立場から—

2008 Victory Summit in 埼玉: 埼玉県体育協会主催 (2008. 12)

岩本 正姫

<学術論文>

Determination of the $\dot{V}E/\dot{V}CO_2$ slope from a constant work-rate exercise test in cardiac patients

Masayo Hoshimoto-Iwamoto, Akira Koike, Osamu Nagayama, Akihiko Tajima, Tokuhisa Uejima, Hiromasa Adachi, Tadanori Aizawa, Karlman Wasserman

The Journal of Physiological Sciences. 2008 Aug; 58(4): 291-95.

Prognostic value of end-tidal CO_2 pressure during exercise in patients with left ventricular dysfunction

Masayo Hoshimoto-Iwamoto, Akira Koike, Osamu Nagayama, Akihiko Tajima, Takeya Suzuki, Tokuhisa Uejima, Hitoshi Sawada, Tadanori Aizawa

The Journal of Physiological Sciences. 2009 Jan; 59(1): 49-55.

〈学会発表〉

陳旧性心筋梗塞患者における $\dot{V}E/\dot{V}CO_2$ slope の生理的意義

岩本正姫, 小池 朗, 長山 医, 山口香織, 小林みどり,
中嶋美保子, 田嶋明彦, 葉山恵津子, 櫻田弘治, 千葉幸
恵, 合田あゆみ, 澤田 準, 相澤忠範

日本心臓リハビリテーション学会誌 13 Supple. S88, 2008

心疾患患者における運動負荷中の呼気終末酸素分圧測定
の意義

岩本正姫, 小池 朗, 澤田 準, 相澤忠範

日本心臓病学会誌 Volume 2 Supple I 287, 2008

細見 修

【原著論文】

1. Novel oligosaccharide has suppressive activity against
human leukemia cell proliferation.

Glycoconjugate J., (2009) 26: 189-198. DOI 10.1007/
s10719-008-9175-z

O. Hosomi, Y. Misawa, A. Takeya, Y. Matahira, K. Suga-
hara, Y. Kubohara, F. Yamakura, S. Kudo

Various oligosaccharides containing galactose(s) and one
glucosamine (or N-acetylglucosamine) residues with β 1-4,
 α 1-6 and β 1-6 glycosidic bond were synthesized; Gal β 1-
4GlcNH₂, Gal α 1-6GlcNH₂, Gal α 1-6GlcNAc, Gal β 1-
6GlcNH₂, Gal β 1-4Gal β 1-4GlcNH₂ and Gal β 1-4Gal β 1-
4GlcNAc. Gal α 1-6GlcNH₂ (MelNH₂) and glucosamine
(GlcNH₂) had a suppressive effect on the proliferation of
K562 cells, but none of the other saccharides tested containing
GlcNAc showed this effect. On the other hand, the prolifera-
tion of the human normal umbilical cord fibroblast (HUC-
F2) was suppressed by none of the saccharides other than
GlcNH₂. Adding Gal α 1-6GlcNH₂ or glucosamine to the cul-
ture of K562 cell, the cell number decreased strikingly after 72
hr. Staining the remaining cells with Cellstain Hoechst 33258
(H33258), chromatin aggregation was found in many cells,
indicating the occurrence of cell death. Furthermore, all of the
cells were stained with Gal α 1-6GlcNH-FITC (MelNH-
FITC). Neither the control cells nor the cells incubated with
glucosamine were stained. On the other hand, when GlcNH-
FITC was also added to cell cultures, some of them incubated
with Gal α 1-6GlcNH₂ were stained. The difference in the
stainability of the K562 cells by Gal α 1-6GlcNH-FITC and

GlcNH-FITC suggests that the intake of Gal α 1-6GlcNH₂ and
the cell death induced by this saccharide is not same as those of
glucosamine.

The isolation of the Gal α 1-6GlcNH₂ binding protein was
performed by affinity chromatography (melibiose-agarose)
and LC-MS/MS, and we identified the human heterogeneous
ribonucleoprotein (hnRNP) A1 (34.3 kDa) isoform protein
(30.8 kDa). The hnRNP A1 protein was also detected from
the eluate(s) of the MelNH-agarose column by the immuno-
logical method (anti-hnRNP-A1 and HRP-labeled anti-
mouse IgG(γ) antibodies).

2. Binding specificities of novel synthesized oligosaccha-
rides to galectin (C-16) and anti- α Gal IgG antibody.

Chitin Chitisan Res., (2008) 14(3) 263-268.

O. Hosomi, A. Takeya, Y. Misawa, K. Ikeda, Y. Matahira

We have been developing novel oligosaccharides which have
biological and physiological functions in humans', and other
animals' health. It is possible that novel oligosaccharides con-
taining α - and β -galactose residues at non-reducing terminal
are bound to α - and β -galactose-binding proteins (e.g. anti-
Gal IgG antibody and galectins) and that glucosamine
residues at reducing terminal have some important health-
related functions.

Thus, a comparative study of novel synthesized oligosaccha-
rides with other saccharides was performed with regard to their
binding specificities to galactose-binding proteins which were
obtained from chicken liver (galectin, C-16) and human se-
rum (anti- α Gal IgG antibody). Among them, lactosamine
(Gal β 1-4GlcNH₂) and N-acetylactosamine (Gal β 1-
4GlcNAc) were the most effective saccharides with regard to
their binding to the galectin (C-16). Lactose (Gal β 1-4Glc),
allolactosamine (Gal β 1-6GlcNH₂), N-acetylallolactosamine
(Gal β 1-6GlcNAc) and galactosyllactosamine (Gal β 1-
4Gal β 1-4GlcNH₂) were next most effective ones. Other sac-
charides tested did not bind to the galectin. On the other hand,
MelNH₂ (Gal α 1-6GlcNH₂) and MelNAc (Gal α 1-6GlcNAc)
bound to human anti- α Gal IgG antibody more effectively than
melibiose (Gal α 1-6Glc) and raffinose (Gal α 1-6Glc α 1-2Fru).
Although galactosyllactosamine has a β 1-4 bond between two
galactose residues, it bound weakly to human anti- α Gal IgG
antibody. The reason why this trisaccharide (galactosyllactosa-
mine) binds to the antibody is not clear. However, we expect
that these oligosaccharides have some important biological and

physiological functions, in association with galactose binding proteins.

【学会発表】

1. オリゴ糖のマウス骨芽様細胞(MC-3T3)増殖とコラーゲン産生への影響

キチン・キトサン学会(2008)

小川壮太郎, 草谷 誠, 田中優一, 浅川晴菜, 藤田ゆかり, 三澤義知, 細見 修

我々の研究室では, グルコサミンやオリゴ糖類が細胞増殖や, コラーゲン産生量に及ぼす影響についての研究を進めている。

今回の発表では, 低濃度グルコサミン(0.5 mM)の細胞培養系(MC-3T3)への添加が細胞増殖を促すとする結果と, コラーゲン産生量が相関するの否かについて検証した。又, キトオリゴ糖類 $[(\text{GlcNH}_2)_{2\sim 5}]$ や新規オリゴ糖類の細胞培養系への添加による細胞の増殖や, コラーゲンの産生に及ぼす影響も検証した。

その結果, コラーゲン産生についてキトオリゴ糖を添加することで有意に上昇することが認められた。また, 既に報告されているように, 我々も低濃度のグルコサミンを培養細胞系に添加することによって細胞増殖が促されることを観察した。そこで, グルコサミンとキトオリゴ糖の両者を同時に培養細胞に添加することで, 細胞増殖とコラーゲン産生に効果をもたらすか否かを調べている。

2. グルコサミン, キトオリゴ糖類とアロマオイルが動物由来の培養細胞に及ぼす影響

キチン・キトサン学会(2008)

藤田ゆかり, 浅川晴菜, 小川壮太郎, 草谷 誠, 田中優一, 三澤義知, 池田啓一, 細見 修

私たちの研究室では, グルコサミン, キトオリゴ糖類の細胞増殖や, コラーゲン産生量への影響を研究している。

今回はアロマとの相乗効果について検証する。アロマは植物から抽出したエッセンシャルオイル(精油)を様々な方法で用いることにより香りだけでなく様々な心理, 生理的作用があり, 心身を健康にしていくなされている。

私たちは, アロマは香りを嗅ぐことだけでなく, 直接マウスの骨芽様細胞(MC-3T3)に何らかの影響を及ぼす可能性があると考えた。そこで10種類のアロマオイルを使い, 培養細胞に対する影響を明らかにすることにした。まず0.1%のアロマオイルでは, 細胞増殖への効果は見られず, むしろ増殖を抑える影響がでた。しかし, 0.01%では, 2, 3種類のアロマオイルに細胞増殖効果が認められた。

そこで, グルコサミン, キトオリゴ糖類との相乗効果を検証し, またコラーゲンの産生量や他の培養細胞(マクロファージ等)への影響が見られるか実験を進めている。

3. K562(ヒト由来白血病)細胞のGal α 1-6GlcNH $_2$ 二糖類結合蛋白質について

キチン・キトサン学会(2008)

細見 修, 三澤義知, 又平芳春, 竹屋 章, 工藤重治

ヒト由来のK562培養細胞は, MelNH $_2$ (Gal1-6GlcNH $_2$)の添加・培養によってその増殖が抑制される。細胞質と核内を行き来できるリボ核蛋白質の仲間(hnRNP A1)がMelNH $_2$ と結合したまま核内に移行することで, hnRNP A1が有するpre-mRNAの成熟作用が阻害されるものと予想した。

第一に, K562細胞を0.1% Triton X-100を含むPBSで可溶化した後, MelNH $_2$ -agaroseカラムによるAffinity chromatographyを行ってMelNH $_2$ 結合性蛋白質画分を得た。又, K562細胞培養系にMelNH $_2$ を添加して72時間培養後, ProteoExtract[®]を用いた細胞分画を行った。これによって得られたCytosolic Protein Extract(Fr.1), Membrane/Organelle Protein Extract(Fr.2), Nucleic Protein Extract(Fr.3), Cytoskeletal Matrix Protein(Fr.4)の4画分についてPVDF膜プロット・免疫染色を行った。又, 同時に細胞をFITC-GlcNH(FITC conjugated GlcNH $_2$)で染色して添加する糖の違いによる染色性の違いを観察した。さらに, 糖添加と培養を行った細胞からtotal RNAを抽出・精製し, 糖添加が及ぼす遺伝子発現への影響について, DNAマイクロアレーを用いた解析を行った。

その結果, DNAマイクロアレー解析から, GlcNH $_2$ 添加では様々な遺伝子に増減の動きが見られるのに対し, MelNH $_2$ 添加では糖代謝系や二価金属イオンの移送等に係わる遺伝子に大きな変動が認められた。

須藤 路子

第二言語としての英語における日本人学習者の習熟度と英語母語話者の習得完成度

須藤路子, 金子育世

日本音響学会講演論文集: 319-320, 2008

米語成人話者, 米語母語話者の小学校3年生, 米国滞在経験のある日本人学習者と滞在経験のない日本人学習者の4グループの被験者を用意し, 英語母語習得と第二言語習得における持続時間制御パターンを観測した。

**Key Words for Attaining English Speaking Proficiency:
From the Viewpoint of Speech Science**

Michiko M. Sudo

日本脳神経外科国際学会フォーラム特別講演: 2008

英語のスピーキング力向上に関する生成実験を紹介し、実験結果から効果的な学習法を解説した。特にプロソディの習得の重要性と実践的な学習法をスピーチサイエンスの見地から説明した。

Emotional Expressions in L1 and L2 English Writing

Ikuyo Kaneko & Michiko M. Sudo

JALT 2007 Conference Proceedings: 949-956, 2008

“金子 育世”の項参照

日本人学習者の英語習熟度とリズムパターンの生成

金子育世, 須藤路子

第22日本音声学会全国大会予稿集: 79-84, 2008

“金子 育世”の項参照

金子 育世

An experimental study of emotional prosody and expression in Japanese learners of English with implications for language teaching 博士論文(国際基督教大学大学院提出) 2008. 5

日本人英語学習者による感情的プロソディと感情表現を英語母語話者のそれらと比較し、類似点と相違点を明確にするため、音読を用いた音声生成実験と英語母語話者による聴取評価実験を行った。

Emotional expressions in L1 and L2 English writing

Ikuyo Kaneko & Michiko M. Sudo JALT2007 Conference Proceedings, 949-956, 2008. 8

日本人英語学習者の手紙と米語母語話者の手紙を比較し、L1(第一言語)およびL2(第二言語)によるライティングの感情表現における類似点と相違点を観測し、感情表現の習得度とTOEICスコアの相関関係を検討した。

第二言語としての英語における日本人学習者の習熟度と英語母語話者の習得完成度 著者: 須藤路子, 金子育世 日本音響学会2008年秋季研究発表会講演論文集 319-320, 2008. 9

“須藤 路子”の項参照

日本人学習者の英語習熟度とリズムパターンの生成—持続時間制御の観点から— 著者: 金子育世, 須藤路子 第22回日本音声学会全国大会予稿集 79-84, 2008. 9

日本人英語学習者を米国滞在経験の有無により2つのグループに分け、日本人学習者のTOEICスコアで測定された英語能力と生成パターンとの関係を分析し、英語能力と習得段階を観測した。

大津 一義

1. 学術論文

① **生き生きスクールの推進**, 大津一義, 学校保健研究, VOL. 49, No. 6, 397-404, 2008

第54回日本学校保健学会で学会長として講演した内容をまとめたものである。子どもの緊急事態に対応するには、ヘルスプロモーションの理念であるQOLの向上をめざして、教育と健康を融合させた生き生きスクールの構築と推進が不可欠であり、そのための戦略について論及した。

② **QOL向上を目指す健康教育の推進**, 大津一義, 日本健康教育学会誌, VOL. 16, No. 1, 1-2, 2008

現在進行中の「健康日本21」の効果を上げるには社会の力と個人の力を相互に連携することが重要であるが、生活習慣病のリスクファクターが生活者自身の日常生活の仕方にあることから、個人の力を高める健康教育に負うところが大きい。この立場から、健康教育成立の内的条件(目的, 内容, 方法, 評価)について言及した。

2. 著書

① **保健教材イラストブック**, 中・高校編上巻, 大津一義, 関ひろ子監修, 少年写真新聞, 2008

生徒自身が健康について考える際の手助けとなるような資料(生活習慣, 自己健康管理, 酒・タバコ, 食中毒, 伝染病, アレルギー, 心の健康, 妊娠出産・避妊, 感染症, 健康診断, 耳, 歯・口)を収めている。「保健だより」「プリント」などにも活用できるようにしている。

② **保健教材イラストブック**, 中・高校編下巻, 大津一義, 関ひろ子監修, 少年写真新聞, 2008

応急手当, 熱中症, スポーツ障害, おしゃれ, 鼻・のど・気管支, 目, 食, 薬物乱用, 薬の使い方, 安全な環境, 発達障害について取りあげている。

3. 学会発表

① ヘルシースクールの推進—心の健康づくりに注目して—, 荒井裕見子, 大津一義, 学校保健研究, VOL. 50, suppl. 338, 2008

楽しい学校づくり推進のために, 全ての教育活動において, 学力向上を主とする「かしこき委員会」と健康・体力向上を主とする「すこやか委員会」との相互連携による心の健康を高める肯定的アプローチを実施したところ効果的だった。

② 大学生の持つ禁止令に関する研究—禁止令の実情と自我状態との関連—, 山田公平, 前上里 直, 大津一義, 学校保健研究, VOL. 50, suppl. 347, 2008

大学生の不適応行動には禁止令が関与していることが考えられることから, その実情とエゴグラムとの関連を検討した結果, 「成功してはいけない」の禁止令を多く持っており, CP, AC が高く FC が低いことが判明した。

③ 異性とのコミュニケーションに視点をあてた保健授業における情意および認識形成に関する研究, 前上里 直, 山田公平, 白石孝久, 大津一義, 学校保健研究, VOL. 50, suppl. 376, 2008

高校生を対象にアサーティブコミュニケーションスキル形成の授業を行ったところ, 情意および認識の階層性(低次から高次への形成過程)に沿った能力を培う必要性が伺えた。

④ 看護職に対する禁煙教育の進め方に関する研究, 山本澄子, 大津一義, 第12回千葉県学校保健学会講演集, 41, 2008

看護師の喫煙率が高いことから, 禁煙行動を促すのに効果的な学習指導過程のあり方について, 一般病院の看護師を対象に検証授業を行って検討した。その結果, 意志決定スキル形成の5ステップを経ることが効果的であることが伺えた。

⑤ 生涯にわたる健康手帳の開発—女子学生を対象に(その1)—, 上野美保, 鴨志田裕子, 大津一義, 第12回千葉県学校保健学会講演集, 43, 2008

生涯にわたって日々の生活習慣を評価することが重要視されてきていることから, その有効手段としての健康手帳を開発するために, 短期大学保育科2年の164人の女子学生を対象にアンケート調査を行った。健康状態の悪い群に顕著に認められた項目を重点的に取り入れることの必要性

がうかがえた。

⑥ アクティビティを活用したライフスキル教育の可能性, 山羽教文, 黒崎宏一, 大津一義, 今関豊一, 山田浩平, 第12回千葉県学校保健学会講演集, 43, 2008

ライフスキル教育を導入する学校が漸増してきているが, その教材としては, アクティビティな活動の方が学習効果が高いということから, 「ナンバーズ」を開発し, 問題解決スキルの形成に有効であることをワークショップを通して検証した。

⑦ 意志決定スキル形成のためのワークシートづくり—「将来のわたしへのプレゼント」6年保健指導を通して—, 二瓶 愛, 野木英表, 近藤康子, 大津一義, 第12回千葉県学校保健学会講演集, 43, 2008

6年生の学級活動の時間に, 自分自身の生活習慣を振り返り, 自分で課題を見つけ, よりよい行動を選択し意志決定して, 日常生活で実践し継続できる力を育成するためのワークシートの検証をおこなった。意志決定の5ステップと大切な人からの肯定的な評価を記入してもらえる生活チェック表を併用することが効果的であることが伺えた。

佐久間和彦

論文

1) Yusaku SUGIURA, Tomoyuki SAITO, Keishoku SAKURABA, Kazuhiko SAKUMA, Eiichi SUZUKI
Journal of Orthopaedic & Sports physical Therapy
Volume 38, No. 8

『Strength deficits identified with concentric action of the hip Extensors and eccentric action of the hamstrings predispose to hamstring injury in elite sprinters』2008. pp457-464

2) 佐久間和彦, 柳谷登志男, 杉浦雄策, 杉田正明
北京体育大学紀要2008年後期号掲載

『陸上競技4×100mリレーにおけるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの特性の比較』

学会発表

1) 北村遼介, 越川一紀, 佐久間和彦, 宮本 彩, 柳谷登志雄。

足関節の動態が短距離疾走能力に与える影響。第21回日本トレーニング科学会。埼玉。2008。

2) 渡辺圭祐, 高橋佑毅, 佐久間和彦, 越川一紀, 青木和浩, 柳谷登志雄.

疾走能力と接地局面における下肢関節角度変化パターンの関係. 第21回日本トレーニング科学会. 埼玉. 2008.

3) 高橋佑毅, 小山桂史, 宮本 彩, 渡辺圭祐, 越川一紀, 佐久間和彦, 柳谷登志雄.

短距離疾走における最大疾走速度と下肢セグメントの動作に関する運動学的変数との関係. 第21回日本トレーニング科学会. 埼玉. 2008.

4) 柳谷登志雄, 宮本 彩, 小山桂史, 渡辺圭祐, 青木和浩, 越川一紀, 佐久間和彦.

足関節における受動的底屈トルクがスプリント走能力に及ぼす影響. 日本バイオメカニクス学会, 仙台. 2008.

5) 宮本 彩, 佐久間和彦, 越川一紀, 青木和浩, 柳谷登志雄.

疾走能力および跳躍能力における高校生と大学生との比較. 日本バイオメカニクス学会, 仙台. 2008.

鯉川なつえ

スポーツ系及び文化系女子大学生の納豆摂取状況が月経随伴症状に及ぼす影響: 柳田美子, 山田浩平, 鯉川なつえ, 順天堂大学スポーツ健康科学研究 12: 29-39, 2008, 3

スポ系群および文系群女子大学生を対象に納豆摂取が月経随伴症状に与える影響について検討した結果, 納豆摂取頻度が低い群は高い群に比べて身体的要素の67%と精神的要素のすべての項目において月経随伴症状がみられ, 納豆摂取は月経随伴症状を軽減する可能性が示唆された.

陸上競技における「スポーツ貧血」の現状と対策: 鯉川なつえ, 日本臨床スポーツ医学会誌 16(2): 216-220, 2008. 4

陸上競技におけるスポーツ貧血のほとんどは「溶血性貧血」であり, 跳躍選手および長距離選手は短距離選手と比較して有意に Hb, Hct, ハプトグロビンが低値を示したことから, トレーニングの期分け, 食事内容およびサプリメントの活用を十分に考慮することが必要と考えられた.

Preventive Effect of Lactoferrin Intake on Anemia in Female Long Distance Runners: Natsue Koikawa, Isao Nagao-

ka, Masahiro Yamaguchi, Hirokazu Hamano, Koji Yamauchi, and Keisuke Sawaki, Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 72(4): 931-935, 2008, 5

This study investigated whether intake of lactoferrin (LF) would improve or prevent anemia in female long distance runners who were training during the summer season and had a high risk of iron-deficiency anemia. These observations suggest the possibility that intake of LF increases the absorption and utilization of iron and would be useful in the prevention of iron deficiency anemia among female long distance runners.

日米の女子学生陸上競技者における月経に関する調査研究: 鯉川なつえ, 岡本英司, 宮崎亮一郎, 陸上競技研究 73(2): 12-18, 2008. 6

日米の女子学生陸上競技者を対象に月経症状とピルの活用についてアンケート調査を行った結果, 日本はアメリカに比べ無月経の発症が多く, ピルの使用頻度および知識が乏しく, 両国共に試合に合わせて月経を移動していない現状がわかった. 今後は月経周期を利用したコンディショニングの確立が必要であることが示唆された.

(学会発表)

The supplementation effects of Astaxanthin on sports performance in athletes: Natsue Koikawa, Carotenoid science vol. 12: 11, 2008. 6

アスリートのアスタキサンチンの摂取が動体視力および運動パフォーマンス改善効果について報告した.

女子長距離ランナーにおける走運動負荷後の WGH 摂取の効果: 平尾朋美, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松岡由記, 澤木啓祐, 日本陸上競技学会第7回大会: 35, 2008. 8

女子長距離ランナーの有酸素運動後に WGH を摂取することにより, 筋損傷抑制効果がみられた.

短距離競技者を対象としたトレーニング後の WGH 摂取の検討: 青木和浩, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松岡由記, 佐久間和彦, 澤木啓祐, 日本陸上競技学会第7回大会: 34, 2008. 8

青木の項参照

シスチン・テアニンサプリメントの傾向摂取による陸上競技・長距離駅伝夏期強化合宿時の免疫状態への影響: 村上茂樹, 鯉川なつえ, 仲村 明, 青木和浩, 吉儀 宏, 澤木啓祐, 栗原重一, 大谷 勝, 日本臨床スポーツ医学会誌

16(4): 122, 2008. 11

100 k 競歩における WGH 摂取が筋組織障害等に及ぼす影響: 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松尾彰文, 青木和浩, 松岡由記, 長岡 功, 澤木啓祐, 日本臨床スポーツ医学会誌 16(4): 167, 2008. 11

100 k 競歩中の給水において WGH を摂取することで, 55 k 付近の血中グルタミン濃度が高値で推移し, CK も抑制されることが示唆された.

鈴木 大地

著書

「患者さんから浴びせられる眼科疾患100の質問」メディカルレビュー社 2008年 8月

坪田一男編集 鈴木大地ら. プール遊泳後の洗眼について医学的見地から見解を述べた. pp74-75

論文

「スノーケルを用いた吸気筋トレーニングが水泳パフォーマンスに及ぼす影響」2008年 水と健康医学研究会誌 11巻 1号 山本正彦, 河合祥雄, 宇都宮健太, 鈴木大地, 片山桂一, 染谷由希

スノーケルにおける吸気筋トレーニングは最大換気量, 最大吸気口腔内圧を有意に向上させることが示唆された.

「オープンウォーター水泳の競技記録と有酸素性作業能の関連性」共 2008年 体力科学 2008年 57, pp443-452 小林生海, 綾部誠也, 鈴木大地, 内藤久土, 青木純一郎

専門誌

「かっぱの独り言」単 2008年 1月25日発行 月刊水泳 第378号 pp20 (財)日本水泳連盟
現役時代の競技とコーチについて論述した.

「素顔のアスリートたち」単 2008年 7月10日発行 文部科学時報 平成20年 7月号 1590号 pp16-17
スポーツの持つ魅力と力について解説した.

「北京五輪マラソンスイミング (OWS) を視察して」単 2008年10月20日発行 月刊水泳 第387号 pp18-19 (財)日本水泳連盟

北京五輪マラソンスイミング (OWS) を視察し, レー

スを分析, ロンドンへ向けての課題を提言した.

「勝負師北島の強さ」単 2008年 9月 3日発行 Number 週刊文春 9月 3日臨時増刊 pp31 文藝春秋

北京五輪競泳競技で金メダルを獲得した北島康介の強さについて解説した.

学会発表

「イベントで社会を変革する」共 2008年 9月 第10回 イベント学会 シンポジウム 宮本倫明, 鬼頭 宏, 鈴木大地, マリ・クリスティース

「体力医学におけるトップアスリートの役割」2008年 9月 第63回日本体力医学会 座長, 中路重之. シンポジスト: 鈴木大地, 古賀稔彦, 益子俊志, 斉藤一雄.

体力医学は, 競技スポーツにおける疲労・障害予防から, 健康スポーツにおける健康保持・増進まで, 大きな視野を有するが, それらにトップアスリートがどのようにかわっていきべきかにつき十分な議論はなされてこなかった. 国内のトップアスリートが自らの経験を通じて, 体力医学全般におけるトップアスリートの果たす役割の可能性につき忌憚のない意見を述べた.

「異なる吸気筋トレーニングが水泳競技能力に及ぼす影響」共 2008年 日本体力医学会 山本正彦, 河合祥雄, 鈴木大地, 片山桂一, 染谷由希

中村 恭子

著書

松本千代栄撰集 安村清美, 中村恭子, 高野章子, 岩川みどり 舞踊文化と教育研究会編, 明治図書 (東京), 2008. 1

戦後日本の舞踊教育に創作ダンスを導入し, 舞踊文化と教育の発展に寄与した松本千代栄の論考を収集・整理し, 舞踊論叢, 人間発達と表現, 人間発達と舞踊創作, 舞踊発想と音楽, 舞踊教育の開拓の5巻に編集した.

専門誌等

フィットネス・エクササイズの理論と実際 3-2)-(3) エアロビクダンス スポーツプログラマー養成講座テキスト, (財)日本体育協会編, pp57-68, 2008. 4 分担著

健康体力づくり運動としてのエアロビクダンスの特性と効果, 運動の構成方法, 基礎技術, 指導の要点, 応用プ

プログラムについて解説した。

はじめての創作ダンス～高校男子8時間の単元～ 中村恭子, 君和田雅子 女子体育 50-7・8, pp74-77, 2008. 7

高校男子の創作ダンス単元実践例を紹介した。課題学習法により生徒は主体的に学習に取り組み, 豊かな発想と多様な動き, 大きな動きを引き出すことができる。女子への指導よりも単純で明確な言葉かけが有効となる。

報告書

精神科デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンスアクティビティの試み～気分の変化と症状評価に及ぼす影響について～ 中村恭子, 広沢正孝, 岩崎 香, 古川育美, 稲見理絵, 井原 裕, 石井正紀 病院・地域精神医学 50-2, pp35-37, 2008. 5

デイケア通所の統合失調症患者を対象に週1回4ヶ月間のダンスアクティビティを実施した結果, 症状の比較的軽い患者において, 精神症状や気分, 生活行動の改善に有効に作用する可能性が示唆された。

精神科デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンスアクティビティの試み(2)―体力および精神面に及ぼす影響について― 中村恭子, 広沢正孝, 岩崎 香, 古川育美, 稲見理絵, 石井正紀, 湯田京子, 下境かおり 病院・地域精神医学 50-4, pp84-86, 2008. 8

デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンスアクティビティの実施は, 体力の向上, 精神症状や気分の改善, 活動性の向上に有効に作用する可能性が示唆され, リハビリテーションとしての有効性が検証された。

論文

運動教室が地域在住高齢者の心身に及ぼす影響について―介護予防を目的とした運動教室を事例として― 福川裕司, 丸山裕司, 中村恭子 順天堂大学スポーツ健康科学紀要 12, pp52-57, 2008. 3

高齢者を対象に週1回の運動教室を実施した結果, 教室以外での日頃の運動実施頻度の増加し, 柔軟性や歩行能力の向上, 体重・体脂肪率の低減が見られた。高齢者の運動習慣形成に運動教室の果たす役割が示唆された。

学会発表等

中学校ダンスの男女必修化と今後の展望―全員必修に対応したダンスの学習と指導について― 松本富子, 中村恭子, 中村なおみ 日本体育科教育学会第13回大会(宮城)

ラウンドテーブル, 2008. 6

体育科新学習指導要領で中学校1・2年生において全領域を必修化したことに伴い, 全員履修によるダンス学習が広く実践される可能性についての調査報告をもとに, ダンス学習の現在ならびに今後を展望した。

中学校ダンスの男女必修化に対する現場教員の評価と今後の課題 日本体育学会第59回大会(東京)予稿集, p236, 2008. 9 単著

中学校保健体育科教員を対象に学習指導要領改訂によるダンス男女必修化への意識調査を実施した。改訂後は男子の実施率や授業数が増加し, 男女を問わず全教員が担当する必要があるため, 指導力養成が課題である。

精神科デイケア通所の統合失調症患者を対象としたダンス・アクティビティの試み(3)―精神面および日常生活行動面に及ぼす効果について― 中村恭子, 広沢正孝, 岩崎香, 稲見理絵, 湯田京子, 久保田陵一, 岩間雄大 第51回日本病院・地域精神医学会総会(岡山)抄録集, p74, 2008. 10

統合失調症患者10名を対象にダンス・アクティビティを6ヶ月間実施した結果, 精神症状や不安気分が改善するとともに, 日常生活, 対人関係, 課題の遂行, 持続性, 自己認識において障害が低減したと評価された。

運動教室参加による地域高齢者の心身の変化―教室終了後の追跡調査を踏まえて― 丸山裕司, 福川裕司, 中村恭子 第17回日本健康教育学会(東京)講演集, pp180-181, 2008. 6

比較的健康で意欲的な地域高齢者を対象とした運動教室を3ヶ月間実施した結果, 対象者の運動習慣を形成し, 心身の健康は運動教室前後で保持・向上し, 3ヶ月後も保持され, 運動介入効果はおおむね継続した。

西村 英俊

【報告】

1 gurb を利用したクライアント OS のサーバーによる制御

著者・西村英俊(順天堂大学), 奥野 浩(順天堂大学) 順天堂大学スポーツ健康科学研究 第12号 40~42

サーバーに置かれた設定ファイルで, ローカルコンピュータに複数インストールされた OS から OS を選択し起動するブートローダー Grub へのパッチを開発し, 実習室

における Windows, Linux など異なったサーバーを用いた授業への道を開いた。

2 コース管理システム Moodle の構築の試み

著者・西村英俊(順天堂大学), 菰田智恵子(順天堂大学), 奥野 浩(順天堂大学)

順天堂大学スポーツ健康科学研究 第12号 49~51

オープンソース コースウェアとして定評のある Moodle サーバーを構築し, 学内での e-learning の利用を可能にし, その利用法の解説と, コースウェアの作成方法を紹介した。

野川 春夫

著 書

1. イベント学のすすめ(分担執筆)

イベント学会編

ぎょうせい 2008年9月

担当:「教育:学校教育とイベント」, 「スポーツ:観るスポーツとするスポーツ」

概要:教育の現場において導入されている様々な学校行事をイベントとして取り上げ, その意義や効果, イベントの準備・運営のノウハウを具体的に紹介した。また, 商品化が進むスポーツイベントを観戦型と参加型に大別し, イベントの類型化, 特性, 歴史的変遷と構成要素などについて簡略に紹介した。

学術論文

1. 「ホスピタリティ・プログラムが顧客満足度におよぼす影響—ポウリングセンターにおけるケース・スタディー」
生涯スポーツ学研究, Vol. 5, No. 2/Vol. 6, No. 1 合併号,
pp. 19-32, 2008.

共同研究者:宮崎朋子

2. 「Gender Differences in Spectator Characteristics and Attendance Motives among LPGA Galleries」

Proceedings of the 50th ICHPER・SD Anniversary World Congress 2008

共同研究者: Yasuhiro Watanabe, Koji Matsumoto

その他

1. 「財団かく戦かえり①: 民間ノウハウの吸収と運営能力を向上させ行政から独立するのが健全な道」 月刊・指定管理 11/12月号, 2008年

2. 「スポーツマーケティング」 体育施設管理士養成講習会テキスト (財)日本体育施設協会編, 2008年6月。

3. 「スポーツ施設のマネジメント(総論)」 体育施設運営士養成講習会テキスト (財)日本体育施設協会編, 2008年2月。

シンポジウム

1. 「スポーツのさらなる飛躍はスポーツ施設の整備と充実から」

座 長

文部科学省『生涯スポーツコンベンション2008』(第4分科会)

広島市, 2008年2月15日。

2. 「Strategies and Implementation of Physical Activity for School Students in Japan」

演 者

2008 International Conference on Physical Activity Promotion Strategy for Students

台北, 台湾師範大学, 2008年3月9日。

3. 「スポーツビジネスによる地域活性化」

パネリスト

スポーツ健康産業団体連合会第1回シンポジウム『スポーツは地域の未来を拓く』

東京, 如水会館, 2008年7月8日。

4. 「これからの社会と生涯スポーツ」

演 者

生涯スポーツ学会第10回大会シンポジウム

沖縄, 名桜大学, 2008年10月19日。

5. 「スポーツを核にした地域づくり」

パネリスト

第49回全国体育指導委員研究協議会パネルディスカッション

千葉, 幕張メッセ, 2008年11月27日。

学会発表

1. 「Gender Differences in Spectator Characteristics and Attendance Motives among LPGA Galleries」

発表者: Yasuhiro Watanabe, Haruo Nogawa, Koji Matsumoto

50th ICHPER・SD Anniversary World Congress 2008
鹿屋体育大学, 2008年5月9日

2. 「Effects of Droutability Exercise Programs on Coordination Abilities and Self-Efficacy of the Golden-age Children」

発表者: Tatsuo Yasumitsu, Haruo Nogawa

50th ICHPER・SD Anniversary World Congress 2008
鹿屋体育大学, 2008年5月10日

3. 「The current situation on significant others correlating of sport identity and sports participation in China」

発表者: Yu Gu, Haruo Nogawa

50th ICHPER・SD Anniversary World Congress 2008
鹿屋体育大学, 2008年5月11日

4. 「ゴルフギャラリーの滞留意欲に関する研究 —顧客層別に着目して—」

発表者: 渡辺泰弘, 松本耕二, 野川春夫

日本生涯スポーツ学会第10回大会, 名桜大学, 2008年10月19日.

5. 「大スポーツイベントにおけるエコ対策の現状と課題 ~東京マラソンを事例として~」

発表者: 山田大輔・野川春夫

イベント学会第10周年記念大会, 上智大学, 2008年9月4日.

6. 「チャレンジデーとソーシャルマーケティング」

発表者: 佐野吉彦・野川春夫

第10回イベント学会, 上智大学, 2008年9月4日

7. 「スポーツ・ツーリズム誘発型の都市型スポーツイベント: 観るスポーツとするスポーツに着目して」

発表者: 野川春夫

第10回イベント学会, 上智大学, 2008年9月4日

8. 「マスターズイベントにおける参加者満足度: 掴もう! マスターズのこころ」

発表者: 須賀綾乃, 野川春夫

第10回イベント学会, 上智大学, 2008年9月4日

9. 「民間フィットネスクラブにおけるホスピタリティーベンチマーキングによるホスピタリティー実践手法の提案—」

発表者: 宮崎朋子・高橋季絵・野川春夫

日本生涯スポーツ学会第10回大会, 名桜大学, 2008年10月18日.

10. 「東京マラソンにおけるエコ対策の現状と課題」

発表者: 山田大輔・野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日.

11. 「総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアマネジメント—3 クラブを事例にして—」

発表者: 山口志郎・野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日.

12. 「スポーツ環境とスポーツアイデンティティに関する研究: 中国遼寧省の中学生を対象として」

発表者: 谷 宇, 野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日

13. 「実業団長距離走者の動機付けタイプと競技意欲との関連について」

発表者: 谷 口 美, 野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日

14. 「武道参加者の達成目標を規定する参加動機: カナダの地方都市における調査から」

発表者: 北村尚浩, 川西正志, 横山茜理, 野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日

15. 「指定管理者制度が公共スポーツ施設職員の職務満足度に与えた影響」

発表者: 野川春夫, 重川聡子, 宮崎朋子, 高橋季絵

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月18日

16. 「生涯スポーツ振興におけるソーシャルマーケティング」

発表者: 佐野吉彦・野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月19日

17. 「公共スポーツ施設の顧客満足度に関する質的研究」

発表者: 高橋季絵, 菅谷佑佳, 宮崎朋子, 野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会, 名桜大学, 2008年10月19日

18. 「ドラウタバリティ・プログラムの有効性: 子どもの調整力と運動有能感に着目して」

発表者：安光達雄，野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会，名城大学，2008年10月19日

19. 「総合型地域スポーツクラブのソーシャルキャピタルの研究」

発表者：河原行雄，岡安 功，野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会，名城大学，2008年10月19日

20. 「ゴルフギャラリーの滞留意欲に関する研究：顧客層別に着目して」

発表者：渡辺泰弘，松本耕二，野川春夫

第10回日本生涯スポーツ学会，名城大学，2008年10月19日

21. 「Is Golf the Mirror of Japanese Society? Emergence of Pettit Bourgeois」

発表者：Yasuhiro Watanabe, Haruo Nogawa

2008年北米スポーツ社会学学会 (North American Society for the Sociology of Sport), 米国・デンバー市, 2008年11月2日

22. 「Why do Japanese people want to be sport volunteers?」

発表者：Shiro Yamaguchi, Haruo Nogawa, Yasuo Yamaguchi

2008年北米スポーツ社会学学会 (North American Society for the Sociology of Sport), 米国・デンバー市, 2008年11月4日

23. 「Globalization or Japanization of Sumo in the Contemporary Japanese Society」

発表者：Haruo Nogawa

2008年北米スポーツ社会学学会 (North American Society for the Sociology of Sport), 米国・デンバー市, 2008年11月6日

24. 「Can Soccer Save Youth Generations?」

発表者：Keiko Jodai and Haruo Nogawa

2008年北米スポーツ社会学学会 (North American Society for the Sociology of Sport), 米国・デンバー市, 2008年11月6日

田中 純夫

〈論文〉

モチベーション研究における動機概念に関する理論的整理—McClellandの所説に基づいて—, 水野基樹, 川田裕次郎, 飯田玲衣, 山本真己, 東 慎治, 上野朋子, 山田泰行, 杉浦 幸, 田中純夫: 千葉経済大学短期大学部研究紀要 第4号, 51-61, 2008

McClelland (1987) の「Human Motivation」に基づいて, 人間の動機傾向の測定, 達成動機, パワーニーズ, 親和動機, 回避動機というパースペクティブからそれぞれの概念を整理して批判的検討を加えた.

Development of a Japanese Version of the Cambridge Depersonalization Scale and Application to Japanese University Students, Sugiura, M Hirosawa, M Nishi, Y Yamada, Y Mizuno, M Tanaka, S, 平成19年度順天堂精神医学研究所紀要, 93-101, 2008

The Cambridge Depersonalization Scale (CDS) is an instrument which has obtained reliability and validity in some countries for use among psychiatric patients but not yet in Japan, nor for use among general population. Considering these conditions, we carried out 2 studies, study 1 was to develop a Japanese Version of CDS (j-CDS) and to examine its reliability and validity, and study 2 was to apply j-CDS to university students.

Bus driver's mental condition and its relation to bus passengers' accidents focusing on the Psychological, Yamada, Y Mizuno, M Sugiura, M Tanaka, S Mizuno, Y Yanagiya, T Hirosawa, M: Journal of Human Ergology Vol. 37 No. 1, 1-12, 2008

The purpose of this study was to clarify the psychological factors of bus driver's instability that were relate to bus passengers' accidents according to the hypothesis model based on the stress concept of Lararus and Folkman. Based on the results, a model assuming that stress reaction caused by job stressors disturbed the bus driver's safe driving and was associated with passengers' accidents in the bus was verified to some degree. Especially melancholy and tired feeling toward passengers showed a strong relation to passengers' accidents in the bus.

〈学会発表〉

児童生徒の適応支援を目的としたスクールサポート体制

の構築～特別支援と開発的心理教育援助の2側面から～, 田中純夫, 山本真己, 中山恵一, 川田裕次郎, 杉浦 幸, 水野基樹, 北村 薫, 人類動態学会会報 No. 89, 55-58, 2008

大学生アスリートにおける達成動機と達成行動の関連—目標理論からのアプローチ—, 川田裕次郎, 山田泰行, 杉浦 幸, 田中純夫, 水野基樹, 広沢正孝: 人類動態学会会報 No. 88, 18-19, 2008

中学校における身体活動を取り入れたピアサポートプログラムのシステム構築, 田中純夫, 山本真己, 今野 亮, 中山恵一, 川田裕次郎, 北村 薫, 日本体育学会第59回大会予稿集, 97, 2008

大学生アスリートにおける攻撃性に関連するパーソナリティ要因—H. Kohut の自己愛モデルを援用して—, 山本真己, 田中純夫, 中島宣行, 日本体育学会第59回大会予稿集, 104, 2008

学生陸上競技選手の目標志向性と有能さの認知が達成動機に及ぼす影響—競技レベルに着目して—, 川田裕次郎, 田中純夫, 中島宣行, 日本体育学会第59回大会予稿集, 108, 2008

高校運動部員の道徳判断と青年期における親からの独立及び重要な他者への信頼感との関連について, 五十嵐辰也, 田中純夫, 中島宣行, 日本体育学会第59回大会予稿, 115, 2008

学生アスリートの目標志向性が達成動機に及ぼす影響, 川田裕次郎, 田中純夫, 中島宣行, 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 65, 2008

青年期から成人期にかけてのYG性格検査の縦断的変化, 山岸明子, 田中純夫, 山本真己, 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 726, 2008

高校運動部員の道徳判断に対人関係発達及び指導者の社会的勢力が与える影響, 五十嵐辰也, 田中純夫, 中島宣行, 日本スポーツ心理学会第35回記念大会研究発表抄録集, 120-121, 2008

大学生アスリートの攻撃性の生起メカニズムに関する基礎的研究—H. Kohut における自己愛の理解とその関連要因に着目して—, 山本真己, 田中純夫, 日本スポーツ心理学会第35回記念大会研究発表抄録集, 200-201, 2008

水野 基樹

【著書】

秋山義継編著, 三森敏正, 松岡弘樹, 坂野喜隆, 桜井武典, 水野基樹, 飯野邦彦, 金山茂雄, 松岡公二, 長谷川一博著『経営学トレーニング』創成社, 2008年5月

経営学をこれから学ぼうとする方や企業の経営や組織について関心を持っている方に経営学の入門にあたる知識やイメージを提供する基礎的なトレーニング問題集である。第6章「経営組織」(61-77頁)および第7章「経営戦略」(78-90頁)の執筆を担当した。

【学術論文】

「Bus Driver's Mental Condition and its Relation to Bus Passengers' Accidents: Focusing on the Psychological Stress Concept」

Authors: Yamada Y, Mizuno M, Sugiura M, Tanaka S, Mizuno Y, Yanagiya T, Hirokawa M

Journal of Human Ergology, Vol. 37, No. 1, 2008, pp. 1-11

The purpose of this study was to clarify the psychological factors of bus driver's instability that were related to bus passengers' accidents according to the hypothesis model based on the stress concept of Lazarus and Folkman (1984). Based on the results, a model assuming that stress reaction caused by job stressors disturbed the bus driver's safe driving and was associated with passengers' accidents in the bus was verified to some degree.

「モチベーション研究における動機概念に関する理論的整理—McClellandの所説に基づいて—」

研究者: 水野基樹, 川田裕次郎, 飯田玲依, 山本真己, 東慎治, 上野朋子, 山田泰行, 杉浦 幸, 田中純夫
千葉経済大学短期大学部『研究紀要』第4号, 2008年3月, 51-62頁

本研究では, McClellandの所説に基づき, 人間の動機に関する概念的整理を試みた。「人間の動機傾向の測定」, 「達成動機」, 「パワー・ニーズ」, 「親和動機」, 「回避動機」という観点から概念の批判的検討を加えた。たしかに, 各動機概念が含意するものは把握できたが, 各概念間の関連

性や類似する用語との相違点などが、今後の課題として指摘された。

「Development of a Japanese Version of the Cambridge Depersonalization Scale and Application to Japanese University Students」

Authors: Sugiura M, Hirokawa M, Nisi Y, Yamada Y, Mizuno M, Tanaka S

順天堂大学精神医学研究所紀要, 2008年5月, 93-101頁.

The Cambridge Depersonalization Scale (CDS) is an instrument which has obtained reliability and validity in some countries for use among psychiatric patients but not yet in Japan, nor for use among the general population. Considering these conditions, we carried out 2 studies; study 1 was to develop a Japanese Version of CDS (j-CDS) and to examine its reliability and validity, and study 2 was to apply j-CDS to university students.

【学会発表・Proceedings】

「プロスポーツクラブにおけるサービスイノベーション人材の育成に関する研究—プロスポーツ選手のキャリア・トランジションの視点から—」

研究者：水野基樹

日本経営教育学会第57回大会研究発表抄録集, 2008年6月, 30-33頁.

本研究はプロスポーツクラブのサービスイノベーション事例を取り上げ、それらの担い手としての人材の育成に関する検討を行った。結論として、プロスポーツ選手を引退してからサービスイノベーションを担い、将来的にはクラブ経営に従事するための経営教育を実施しては遅く、現役中から引退後の新たな役割を認識させる訓練が必要であることが明らかとなった。

「小集団討議に基づく人間工学ロードマップ策定の試み」

研究者：大橋智樹, 水野基樹, 榎原 毅, 申 紅 仙, 堀野定雄, 小木和孝, 酒井一博, 岸田孝弥

日本人間工学会第44回大会講演集, 2008年6月, 132-133頁.

人間工学応用においては、単に技術開発を推進・適用するだけでなく、技術の適用によって生じる社会的な変化をもその視野に入れる必要があり、そのロードマップの策定においては、参加型アプローチの実践が望ましいと考えられる。したがって、人間工学ロードマップを参加型アプローチの小集団討議によって策定した試みについて報告し

た。結果、人間工学の応用分野は7領域に分けられ、それらに3つの応用目標が共通する枠組みが提案された。さらに、タスクフォース指向の参加型小集団討議がロードマップの策定に一定程度有効であることが確認された。

「看護職場における職場内のサポート意識とワーク・ライフ・バランスとの関係について」

研究者：水野有希, 石川千鶴, 水野基樹, 伊藤舞依子, 松田文子, 吉川 徹, 酒井一博

日本人間工学会第44回大会講演集, 2008年6月, 180-181頁.

本研究は働く女性の中でも、家庭生活との両立が難しいといわれる交代制勤務従事者(看護職)を対象に、職場における相談体制や仕事生活と家庭生活の実態を調べ、職場内でのサポート意識と仕事と生活の両立との関係を考察した。職場における円滑な人間関係が仕事のストレス軽減や充実感の増大につながり、相談できる上司がいる職場では、それらがより顕著であることが明らかとなった。

「プロスポーツ選手のキャリア・トランジションを考える意味とは?—人類動態学からの再考の試み—」

研究者：水野基樹・山田真行・井上真実

人類動態学会会報, 第88号, 2008年6月, 20-21頁.

本研究では、多数あるキャリアに関する研究を鳥瞰して、とりわけ心理学、社会学、さらに経営学のパースペクティブから、スポーツ選手のキャリア・トランジションの理論的視座を提供するとともに、人類動態学を基礎とした解釈的な視点から、今後のプロスポーツ選手のキャリア・トランジションに対する研究のメルクマールを提供するという萌芽的な内容である。

「アスリート・バーンアウトに個人差をもたらす性格要因の検討」

研究者：山田泰行・広沢正孝・水野基樹

人類動態学会会報, 第88号, 2008年6月, 15-17頁.

本研究は「メランコリー親和型性格(TM)の有無によってアスリート・バーンアウト症状に関連するストレスの種類は異なる」という仮説の検証を通して、TMの有無がアスリート・バーンアウト症状に関連するストレスの種類に共通性をもたらすか否かを検証した。結果、TMとその構成概念としての課題完璧性(PW)と他者への献身性(DO)の有無によって、アスリート・バーンアウト症状に関連するストレスの種類は異なることが明らかとなった。

「大学生アスリートにおける達成動機と達成行動の関連—目標理論からのアプローチ—」

研究者：川田裕次郎・山田泰行・杉浦 幸・田中純夫・水野基樹・広沢正孝

人類働態学会会報, 第88号, 2008年6月, 18-19頁.

本研究は, 大学生アスリートのモチベーションに個人差をもたらす心理的要因として, 目標志向性 (Dweck, 1986) の概念に着目し, 目標志向性の組み合わせが達成行動を規定する達成動機の種類に個人差をもたらすか否かを検討する. 結果, 目標志向性の組み合わせによって大学生アスリートにおける達成動機の程度と達成行動を規定する達成動機の種類が異なることが確認された.

「児童生徒の適応支援を目的としたスクールサポート体制の構築—特別支援と開発的心理教育援助の2側面から—」

研究者：田中純夫・山本真己・中山恵一・川田裕次郎・杉浦 幸・水野基樹・北村 薫

人類働態学会会報, 第88号, 2008年6月, 55-58頁.

本研究の目的は, 学校教育現場を効果的に支援していくために, 各学校が持っている教育の専門性を基盤として, さらに大学の教員養成機能の専門性とを連携させることにある. 特に教員を目指す大学生をスクールサポーターとして学校参入させることで効率的に児童生徒の適応を支援する協働システムを構築することの重要性を指摘した.

「Relation between continuous exercise and job stress among Japanese nurses」

Authors: Kawata Y, Hirosawa M, Yamada Y, Sugiura M, Nishi Y, Tanaka S, Mizuno M

2008 AHFE International Conference, Las Vegas, Nevada USA, CD-ROM, 2008

We verified what kinds of continuous exercise has a modifying effect on the relation between perception of job stressors and depression, which is regarded as one of the main response to psychological stress among Japanese nurses, and we discuss the possible effects of continuous exercise on job stress among Japanese nurses.

「Relationship between Depersonalization Symptoms and Eating Disorder among Japanese Nurses」

Authors: Sugiura M, Hirosawa M, Yamada Y, Nishi Y, Tanaka S, Kawata Y, Mizuno M

2008 AHFE International Conference, Las Vegas, Nevada USA, CD-ROM, 2008

We observed some cases in which depersonalization symptoms were closely related to the onset of eating disorder. In this paper, first we present our cases and discuss the relationship between eating disorder and depersonalization symptoms (Study 1). Secondly, we examine the relationship between eating disorder and depersonalization, empirically (Study 2).

「Statistical differentiation of depression and burnout using TEMPS-A」

Authors: Yamada Y, Hirosawa M, Sugiura M, Nishi Y, Tanaka S, Kawata Y, Mizuno M

2008 AHFE International Conference, Las Vegas, Nevada USA, CD-ROM, 2008

The purpose of this study is to clarify the psychological process constructing exercise adherence among Japanese older adults based on the sport commitment model. As the result, the process that sport participation motivation leads to exercise adherence through sport commitment was proved.

「プロスポーツ選手のキャリアトランジションに関する研究(I)—分析的枠組みとしての役割卒業モデルに対するキャリア・アンカー概念の援用—」

研究者：水野基樹

日本体育学会第59回大会予稿集, 2008年9月, 112頁.

本研究では, 役割卒業モデルにおけるプロスポーツ選手になる前 (Pre-stage) から, いずれ訪れる引退というトランジション (Stage3) までを射程に入れる. そして, 役割卒業モデルの各 Stage における心理的側面に対して, キャリア・アンカー概念を援用した分析枠組みを提示する.

「プロスポーツ選手のキャリアに関する研究(II)—インタビュー調査からのキャリア・アンカー概念の検討—」

研究者：飯田玲依, 水野基樹, 井上真実, 山田真行, 小川千里, 中島宣行

日本体育学会第59回大会予稿集, 2008年9月, 112頁.

研究(II)では, プロスポーツ選手が辿ってきたキャリアそのものを照射すると同時に, プロスポーツ選手が有するキャリア意識の理解を目的としてインタビュー調査が実施された. その結果, 複数のキャリア・アンカーの間での揺れ動きが確認された.

「運動選手の劣等感と達成動機との関連」

研究者：山田真行, 水野基樹

日本体育学会第59回大会予稿集, 2008年9月, 118頁.

本研究は、運動選手の劣等感と達成動機の関連を検証することを目的とする。そして、競技者としての劣等感が高いにも関わらず、競技に対するモチベーションが高い者が存在することを実証することにより、運動選手に「補償」を基盤とするモチベーションの存在が認められるか否かを検討することとした。

「経営工学と人間工学ロードマップ」

話題提供者：堀野定雄，ディスカッサント：岸田孝弥，新家 敦，水野基樹

日本経営工学会平成20年度秋季研究大会予稿集，2008年10月，2-3頁

アカデミック・ロードマップ作成の動きは国際的にも連動しており，単純な未来予測のレベルを超えて，深刻な地球環境破壊危機を乗り切る人類共通の新しい知的ツールになりつつある。そこで，人間工学と密接な関係にある経営工学ロードマップ構想策定に向けて，人間工学ロードマップの動向を概観した。

「大学スポーツ選手のストレス改善のための基礎的研究 (I)―体育系大学生との比較から―」

研究者：水野基樹，山田泰行，広沢正孝

人類労働学会東日本地方会第89会大会抄録集，2008年11月，31頁。

本研究は，大学で競技活動を行うスポーツ選手がどのような心理的ストレス状況にあるのかを明らかにし，より実践的な介入プログラム開発のための知見を得ることである。その結果，一般総合大学（S大学）運動部員はストレス状況下において問題解決に向かおうとする心性に乏しく，体育系大学の運動部員ほど高い競技ストレスを抱えていないにも関わらず，強くバーンアウト症状を訴える傾向があることが明らかとなった。

「大学スポーツ選手のストレス改善のための基礎的研究 (II)―各運動部への介入の視点から―」

研究者：山田泰行，水野基樹，広沢正孝

人類労働学会東日本地方会第89会大会抄録集，2008年11月，32頁。

研究IIでは，各運動部における詳細な特徴の理解をはかり，より実践的な介入プログラムの開発のための知見を得ることを目的とした。S大学の運動部における心理的ストレスの特徴を評価すると，すべての運動部は5つの類型に分類されることが明らかとなった。

「プロスポーツ選手のキャリアに関する研究」

研究者：飯田玲依，小川千里，水野基樹，中島宣行人類労働学会東日本地方会第89会大会抄録集，2008年11月，33頁。

本研究は，水野ら（2008）の分析枠組みに依拠して，プロスポーツ選手のキャリア・アンカーを役割卒業理論のstage（段階）に沿って探究することを目的とした。結果として，プロ野球選手（投手・25歳）およびプロサッカー選手（DF・25歳）のキャリア・アンカーが，各stageで揺れ動くプロセスが明らかとなった。

「Jリーグ選手の入団前後のキャリアプランに関する研究―Vリーグ選手に対する先行研究との比較―」

研究者：井上真実，水野基樹

人類労働学会東日本地方会第89会大会抄録集，2008年11月，34頁。

本研究では，Jリーガーを対象に，入団前後のキャリアプランの有無と，それに関する不安の程度をVリーグ選手と比較することを目的とした。結果として，Jリーグ選手が現役中の不安を取り除き，入団前に引退後のキャリアプランを持つことは最高のパフォーマンスを発揮する上で重要であることが示唆された。

「達成動機と劣等感との関連」

研究者：山田真行，水野基樹

人類労働学会東日本地方会第89会大会抄録集，2008年11月，25頁。

本研究では，劣等感を源泉とするモチベーションの存在を明らかにするため，動機づけを達成動機と捉え，達成動機と劣等感との関連を検証した。その結果，劣等感の低い人は達成動機が高い傾向が認められた。しかしながら詳細を見ると，劣等感が高いにも関わらず達成動機の高い一群が特定された。

「Effect of goal orientation on the relationship between perceived competence and achievement motivation among high competitive level Japanese university track and field athletes」

Authors: Kawata Y, Yamada Y, Sugiura M, Tanaka S, Mizuno M, Hirosawa M

Journal of Ergonomics in Occupational Safety and Health, Vol. 10, 2008, p35

The purpose of this study was to examine goal orientation has effects on the relationship between perceived competence

and achievement motivation among high competitive level university track and field athletes in Japan. As the results, there were significant main effects of task and ego orientation on perceived competence.

「Relationship between depersonalization and self-perceived medical errors; An empirical study of Japanese Nurses」

Authors: Sugiura M, Hirokawa M, Okada A, Aida H, Yamada Y, Mizuno M

Journal of Ergonomics in Occupational Safety and Health, Vol. 10, 2008, p36

The purpose of this study was to investigate the possible relationship between depersonalization and medical errors. These results suggest that depersonalization is possibly one of the relating factors of medical incidents and accidents. Especially, “alienation from surroundings” and “anomalous body experiences” relate to experience of accident.

「Difference of the relationship between coping and burnout with respect to Typus Melancholicus and other personalities: A study of Japanese nurses」

Authors: Yamada Y, Hirokawa M, Sugiura M, Kawata Y, Mizuno M

Journal of Ergonomics in Occupational Safety and Health, Vol. 10, 2008, p37

This study examined some differences of dynamics which connect to burnout among four personality groups. Especially, we focused on the relation between coping and burnout as a part of such dynamics. As the results, meaningful differential features were observed between four personality groups.

「プロサッカー選手のキャリアに関する研究—キャリア・アンカー概念からのアプローチ—」

研究者：飯田玲依，小川千里，水野基樹，中島宣行
日本スポーツ心理学会第35回記念大会研究発表抄録集，2008年11月，46-47頁。

本研究は役割卒業理論ならびにキャリア・アンカー概念に依拠して，プロサッカー選手のキャリア移行期における価値観の揺れ動きの関係について明らかにすることを目的とする。その結果，本研究における2名のプロサッカー選手については，複数のキャリア・アンカーの揺れ動きが確認された。

「Jリーグ選手のセカンドキャリアに関する研究—入団前後のキャリアプランの観点から—」

研究者：井上真実，水野基樹

日本スポーツ心理学会第35回記念大会研究発表抄録集，2008年11月，92-93頁。

本研究では，スポーツ選手を対象にセカンドキャリアに関して調査した。特に，入団前後のキャリアプランの有無と，それに関する不安の程度を明らかにすることを目的とした。その結果，入団前に引退後のキャリアプランを明確に持っている選手ほど，入団前と現在の引退後に対する不安が少ないことが明らかになった。

「劣等感と達成動機に関する研究—体育系大学生と一般大学生の比較—」

研究者：山田真行，水野基樹

日本スポーツ心理学会第35回記念大会研究発表抄録集，2008年11月，118-119頁。

本研究では，体育系大学生と一般大学生との比較を通して「補償」を基盤とする動機づけの強さやばらつきが運動選手に特有な傾向が認められるか否かを検討するものとした。その結果，体育系大学生は一般大学生と比べて劣等感が高く，達成動機が高いことが認められた。

【その他】

「企業に活かす心理学(1)—スポーツを企業経営のメタファーとして考える意味—」

研究者：水野基樹

『労働の科学』労働科学研究所，第63巻第4号，2008年4月，51頁

「企業に活かす心理学(2)—スポーツにおけるコーチングとリーダーシップの関係—」

研究者：水野基樹

『労働の科学』労働科学研究所，第63巻第5号，2008年5月，55頁

「企業に活かす心理学(3)—モチベーション・マネジメント—」

研究者：水野基樹

『労働の科学』労働科学研究所，第63巻第6号，2008年6月，53頁

「企業に活かす心理学(4)—成功・失敗の原因の認知—」

研究者：水野基樹

『労働の科学』労働科学研究所, 第63巻第7号, 2008年7月, 47頁

「企業に活かす心理学(5)―目標設定とモチベーション―」

研究者: 水野基樹

『労働の科学』労働科学研究所, 第63巻第8号, 2008年8月, 60頁

金子今朝秋

論文

投てき競技者における冬季トレーニング中の心拍変動および各種バイオマーカーの変化 著者: 金子今朝秋, 河合祥雄, 中丸信吾 陸上競技研究 75: 36~42, 2008. 12

投擲競技者における冬期トレーニング期間中の心拍変動の分析により, 自律神経の活動状態について調べると共に血液成分から自律神経に関わる内分泌検査および各酸化ストレスマーカーについての検討した。

自律神経活動のバランスが個々の内部環境のコンディションと言う形で利用できる可能性を示唆した。また, 各種バイオマーカーとの関係にも言及し, 動脈硬化の指標とされているsLDLの増加が見られ, トレーニング強度との関係は今後の検討課題となった。

学会発表

陸上競技投擲選手の自律神経に関する研究 ―R-R間隔周波数分析からの検討―, 金子今朝秋, 河合祥雄, 中丸信吾, 第19回日本臨床スポーツ医学会学術集会 16(4): 172, 2008. 11.

池田 啓一

[論文]

1. 高血圧発症後の持久的運動トレーニングが自然発症高血圧ラット心臓のニトロ化ストレスに及ぼす影響 古川覚, 木村博子, 向田正博, 山倉文幸, 神野宏司, 池田啓一, 順天堂医学, 54, 308-317, 2008

自然発症高血圧ラットにおいて, 高血圧発症後心臓組織でのニトロ化ストレスが亢進していたが, 持久的トレーニングを行うことでその亢進が抑制された。

2. Binding specificities of novel synthesized oligosaccharides to galectin (C-16) and anti- α Gal IgG antibody

Osamu Hosomi, Akira Takeya, Yoshinori Misawa, Keiichi

Ikeda, Yoshiharu Matahira, *Chitin and Chitosan Research*, 14(3), 263-268, 2008

細見修の項参照

[紀要]

1. 種々の生体物質のペルオキシナイトライト消去能 松本 孝, 若林ゆう, 池田啓一, 山倉文幸, 学苑―生活科学紀要―, 818, 35-39, 2008, 12

分光学的手法を用いて, ペルオキシナイトライトが引き起こすタンパク質ニトロ化を指標に, 食品中に含まれている種々の抗酸化物質のペルオキシナイトライト消去能を評価した。

[著書]

1. **Proteomic analysis of 6-nitrotryptophan-containing proteins in peroxytrinitrite-treated PC12 cells**, Keiichi Ikeda, Hideaki Iwai, Takashi Matsumoto, Reiko Mineki, Hikari Taka, Kenji Takamori, Hideoki Ogawa and Fumiyuki Yamakura, *in: The Interdisciplinary Conference on Tryptophan and Related Substances: Chemistry, Biology, and Medicine* (Ed. Katsuji Takai), *International Congress Series*, Elsevier, 2007, 1304, 33-40

パーオキシナイトライトで処理したPC12細胞中のトリプトファンがニトロ化したタンパク質を同定した。また, 生理的な条件におけるトリプトファンニトロ化の意義についても言及した。

2. **Formation of 6-nitrotryptophan in purified proteins by reactive nitrogen species: a possible new biomarker**

Fumiyuki Yamakura, Takashi Matsumoto, Keiichi Ikeda, Hikari Taka, and Naoko Kaga, *in: The Interdisciplinary Conference on Tryptophan and Related Substances: Chemistry, Biology, and Medicine* (Ed. Katsuji Takai), *International Congress Series*, Elsevier, 2007, 1304, 22-32

活性窒素種によるタンパク質チロシン残基やトリプトファン残基のニトロ化などの修飾反応について, ヒト銅, 亜鉛-SOD やリゾチームをモデルにして分析し, それらの修飾反応の意義について言及した。

[報告書]

1. 近未来の生活習慣病予防対策 岩井秀明, 形本静夫, 河合祥雄, 山倉文幸, 池田啓一, 雨宮有子, 千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金・調査研究事業研究費平成19年度報告書

岩井秀明の項参照

2. 近未来の生活習慣病予防対策 岩井秀明, 形本静夫, 河合祥雄, 山倉文幸, 加納達二, 信太直己, 池田啓一, 雨宮有子, 千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金・調査研究事業研究費最終報告書

岩井秀明の項参照

[学会発表]

1. 中高年における身体活動レベルと動脈硬化指標との相関—MDA-LDL, ウエスト周囲径, HDL-cho を中心としての検討— 雨宮有子, 池田啓一, 中島 滋, 加部 勇, 信太直己, 花輪朋樹, 七田祐匡, 山倉文幸, 河合祥雄, 形本静夫, 岩井秀明, 第78回日本衛生学会総会講演集, 日本衛生学雑誌, 63(2), 512, 2008, 2008/3/28-31, 熊本市市民会館(熊本)

岩井秀明の項参照

2. 骨芽細胞様細胞(MC3T3-E1)に対するトリプトファン作用機構 池田啓一, 信太直己, 雨宮有子, 清水智哉, 中島 滋, 山倉文幸, 岩井秀明, 第78回日本衛生学会総会講演集, 日本衛生学雑誌, 63(2), 545, 2008, 2008/3/28-31 熊本市市民会館(熊本)

トリプトファンに骨芽細胞分化促進作用があるが, この作用について3つのMAPキナーゼ経路を解析したところ, p38 MAPキナーゼが活性化されることがわかった。

3. 新しいタンパク質ニトロ化修飾の指標としての6-ニトロトリプトファン 山倉文幸, 池田啓一, 第8回日本NO学会学術集会プログラム抄録集, p. 36(シンポジウム), 2008/5/9-10, 仙台国際センター(宮城)

活性窒素種の新規バイオマーカーである6-ニトロトリプトファンについて, その解析法, 生体中での6-ニトロトリプトファン生成の意義などについて講演した。

4. 肥満者・動脈硬化症患者における酸化傷害の亢進と血清中銅・亜鉛濃度との関連 雨宮有子, 池田啓一, 中島 滋, 山倉文幸, 河合祥雄, 形本静夫, 中里祐二, 加部 勇, 信太直己, 岩井秀明, 第19回日本微量元素学会大会プログラム・抄録集, p. 192, 2008/7/3-4, 学士会館(東京)

岩井秀明の項参照

5. 大学ゼミナールにおける環境教育オープンセミナーの試み—参加型自然体験学習法を中心とした実践報告— 高子真吾, 大給 薫, 大友聡史, 渡邊信久, 渡辺 光, 雨宮有子, 信太直己, 池田啓一, 近藤 智, 増田直広, 小河原孝生, 岩井秀明, 日本環境教育学会第19回大会研究発表要旨集, p. 276, 2008/8/1-3, 学習院女子大学(東京)

岩井秀明の項参照

6. 各種生体物質の peroxynitrite との反応性—トリプトファンとの反応性を中心として 川崎広明, 松本 孝, 池田啓一, 安田従生, 山倉文幸, 日本トリプトファン研究会第30回学術集会講演要旨集, p. 20, 2008/12/6-7, 川崎医科大学現代医学教育博物館(岡山)

等量混合した遊離のチロシンとトリプトファンの peroxynitrite との反応性が, 同程度であることが判明した。また, 食品に含まれる種々の抗酸化物質の peroxynitrite 消去能を評価した。

7. エストロゲン様物質の骨芽細胞(MC3T3-E1)シグナル伝達への影響 池田啓一, 信太直己, 雨宮有子, 岩井秀明, 環境ホルモン学会第11回研究発表会講演要旨集, p. 109, 2008/12/13-14, 星陵会館, 東京ビッグサイト(東京)

エストロゲン様物質の骨芽細胞分化促進作用について, TBTには特にその作用が強いが, そのシグナル伝達について, p38 MAPキナーゼのリン酸化が促進されることがわかった。

岩井 秀明

[著書]

1. 21世紀の予防医学・公衆衛生 町田和彦, 岩井秀明 編著, 杏林書院 2008. 5

講義の教材として用いることができるよう, 多くの図を取り入れた公衆衛生学の教科書を作成した。環境保健と産業保健の章の執筆を分担した。また, 編著も担当した。

2. Proteomic analysis of 6-nitrotryptophan-containing proteins in peroxynitrite-treated PC12 cells Keiichi Ikeda, Hideaki Iwai, Takashi Matsumoto, Reiko Mineki, Hikari Taka, Kenji Takamori, Hideoki Ogawa and Fumiyuki Yamakura.

in: The Interdisciplinary Conference on Tryptophan and Related Substances: Chemistry, Biology, and Medicine (Ed. Katsuji Takai), *International Congress Series*, Elsevier, 2007,

1304, 33-40

池田啓一の項参照

[報告書]

1. 近未来の生活習慣病予防対策 岩井秀明, 形本静夫, 河合祥雄, 山倉文幸, 池田啓一, 雨宮有子 千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金・調査研究事業研究費平成19年度報告書

中高年の生活習慣病に注目し, 血中マーカーの測定を行い, 血中ヒスチジンと肥満度との負の相関などを見いだした。

2. 近未来の生活習慣病予防対策 岩井秀明, 形本静夫, 河合祥雄, 山倉文幸, 加納達二, 信太直己, 池田啓一, 雨宮有子 千葉県血清研究所記念保健医療福祉基金・調査研究事業研究費最終報告書

中高年の生活習慣病について, 特に動脈硬化症と骨粗鬆症に注目し, 栄養, 運動と血中マーカーを用いて検討し, それらの成果をまとめた。

[学会発表]

1. 中高年における身体活動レベルと動脈硬化指標との相関—MDA-LDL, ウエスト周囲径, HDL-choを中心としての検討— 雨宮有子, 池田啓一, 中島 滋, 加部 勇, 信太直己, 花輪朋樹, 七田祐匡, 山倉文幸, 河合祥雄, 形本静夫, 岩井秀明 第78回日本衛生学会総会講演集, 日本衛生学雑誌, 63(2), 512, 2008, 2008/3/28-31 熊本市会館(熊本)

中高年の身体活動レベルと血中動脈硬化指標について分析し, 身体活動レベルと酸化傷害マーカーのMDA-LDLの間に負の相関があった。

2. 骨芽細胞様細胞(MC3T3-E1)に対するトリブチル錫の作用機構 池田啓一, 信太直己, 雨宮有子, 清水智哉, 中島 滋, 山倉文幸, 岩井秀明 第78回日本衛生学会総会講演集, 日本衛生学雑誌, 63(2), 545, 2008, 2008/3/28-31 熊本市会館(熊本)

池田啓一の項参照

3. 肥満者・動脈硬化症患者における酸化傷害の亢進と血清中銅・亜鉛濃度との関連 雨宮有子, 池田啓一, 中島 滋, 山倉文幸, 河合祥雄, 形本静夫, 中里祐二, 加部 勇, 信太直己, 岩井秀明, 第19回日本微量元素学会大会プログラム・抄録集, p. 192, 2008/7/3-4, 学士会館(東

京)

肥満者や動脈硬化症患者における血清中銅・亜鉛や血中酸化傷害マーカーについて解析し, 動脈硬化との関連性について調べた。

4. 大学ゼミナールにおける環境教育オープンセミナーの試み—参加型自然体験学習法を中心とした実践報告— 高子真吾, 大給 薫, 大友聡史, 渡邊信久, 渡辺 光, 雨宮有子, 信太直己, 池田啓一, 近藤 智, 増田直広, 小河原孝生, 岩井秀明 日本環境教育学会第19回大会研究発表要旨集, p. 276, 2008/8/1-3, 学習院女子大学(東京)

清里や尾瀬において, 参加型自然体験学習法による環境教育セミナーを行った。環境への意識の変化やセミナーの感想について, ふりかえりシートに記録し, 各自の自然への意識をまとめた。

5. エストロゲン様物質の骨芽細胞(MC3T3-E1)シグナル伝達への影響 池田啓一, 信太直己, 雨宮有子, 岩井秀明, 環境ホルモン学会第11回研究発表会講演要旨集, 2008/12/13-14 星陵会館, 東京ビッグサイト(東京)

池田啓一の項参照

形本 静夫

1. 原著論文

① Tamura Y, Watada H, Igarashi Y, Nomiya T, Onishi T, Takahashi K, Doi S, Katamoto S, Hirose T, Tanaka Y, Kawamori R. Short-term effects of dietary fat on intramyocellular lipid in sprinters and endurance runners. *Metabolism* 57(3): 373~379, 2008. 3

② Saga N, Katamoto S, Naito H. Effect of heat preconditioning by microwave hyperthermia on human skeletal muscle after eccentric exercise. *Journal of Sports Science and Medicine* 7(1): 176~182, 2008. 3

③ Ogura Y, Naito H, Akin S, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Sugiura T, Powers S K, Katamoto S, Demirel H A. Elevation of body temperature is an essential factor for exercise-increased extracellular heat shock protein 72 level in rat plasma. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*. 294(5): R1600~R1607, 2008. 5

④ 杉山康司, 川村真未, 祝原 豊, 形本静夫. 下リノル

ディックウォーキングが酸素摂取量, 心拍数および主観的運動強度に与える影響. 日本生理人類学雑誌 13(2): 11~18, 2008. 5

⑤ Matsuzuki H, Ayabe M, Haruyama Y, Seo A, Katamoto S, Ito A, Muto T. **Effects of heating appliances with different energy efficiencies on associations among work environments, physiological responses, and subjective evaluation of workload.** *Industrial Health* 46(4): 360~368, 2008. 8

⑥ Ogura Y, Naito H, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Katamoto S. **Alpha-actinin-3 levels increase concomitantly with fast fibers in rat soleus muscle.** *Biochem Biophys Res Commun* 372(4): 584~588, 2008. 8

⑦ 綾部誠也, 熊原秀晃, 青木純一郎, 内藤久士, 形本静夫, 田中宏暁. 歩行率による中等度身体活動時間の価値. *体力科学* 57(4): 453~462, 2008. 8

2. 研究報告・研究資料等

① Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Norio Saga, Ogura Y, Shiraiishi M, Giombini A, Giovannini V, Katamoto S. **Effects of microwave hyperthermia at two different frequencies (434 and 2450 MHz) on human muscle temperature.** *Journal of Sports Science and Medicine* 7(1): 191~193, 2008. 3

② 佐賀典生, 小倉裕司, 関根紀子, 内藤久士, 形本静夫. 高齢者の伸張性運動直後の温熱処置が筋痛・筋損傷の軽減に及ぼす効果. *健康医科学* 23: 70~76, 2008. 3

3. 学会・研究会発表

① 辻川比呂斗, 小倉裕司, 柿木 亮, 黒坂光寿, 内藤久士, 渡邊マキノ, 形本静夫, 岡田隆夫. 急性運動が成体ラット灌流心における低酸素—再酸素化障害に及ぼす影響. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3

② Ogura Y., Naito H., Ichinoseki-Sekine N., Kurosaka M., Kakigi R., Katamoto S. **α -Actinin-3 increases concomitantly with skeletal muscle fast fibers in rat soleus muscle.** *Experimental Biology* 2008, San Diego, USA, 2008

③ Tsujikawa H, Ogura Y, Kurosaka M, Kakigi R, Naito H, Watanabe M, Katamoto S, Okada T. **Acute exercise-in-**

duced heat shock proteins do not protect heart from hypoxia-reoxygenation injury in adult rat. *Experimental Biology* 2008, San Diego, USA, 2008

④ Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Tsuchihara K, Kakigi R, Ogura Y, Kurosaka M, Katamoto, S, Esumi H. **Effects of a lack of Snark on activity, heart rate, and fat and skeletal tissues in mic.** *Experimental Biology* 2008, San Diego, USA, 2008

⑤ Ogura Y, Naito H, Senay A, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Sugiura T, Katamoto S, Demirel H. **A. Elevaion of body temperature is associated with exercise-induced extracellular heat shock protein 72 level in rat plasma.** The American College of Sports Medicine 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, 2008, *Medicine and Science in Sports and Exercise*, 40: 5 supplement, S429, 2008.

⑥ Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Tsuchihara K, Kakigi R, Ogura Y, Kurosaka M, Katamoto S, Esumi H. **Enhanced voluntary running distance and suppressed obesity in Snark-deficient mice.** The American College of Sports Medicine 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, 2008, *Medicine and Science in Sports and Exercise*, 40: 5 supplement, S243, 2008.

⑦ Saga N, Ogura Y, Sekine-Ichinoseki N, Naito H, Katamoto S. **Effect of post-exercise heat treatment on eccentric contraction-induced muscle damage and muscle soreness in older people.** The 13th Annual Congress of the European College of Sport Science in Estoril/Portugal, July. 2008.

⑧ Ogura Y, Naito H, Katamoto S. **Adaptability of alpha-actinin-3 in skeletal muscle.** The 13th Annual Congress of the European College of Sport Science in Estoril/Portugal, July. 2008.

⑨ 柿木 亮, 内藤久士, 小倉裕司, 形本静夫. 筋力トレーニング初期における温熱負荷がラット骨格筋に及ぼす影響. 第16回日本運動生理学会大会, 奈良, 2008

⑩ 黒坂光寿, 内藤久士, 関根紀子, 小倉裕司, 小林生海, 柿木 亮, 形本静夫. 持久的トレーニングが筋衛星細

胞発現に及ぼす影響—筋線維タイプごとの検討—。第16回日本運動生理学会大会, 奈良, 2008

⑪ 佐賀典生, 遠藤隆志, 内藤久士, 形本静夫. 温熱処置のタイミングが伸張性筋力発揮に及ぼす影響. 第16回日本運動生理学会大会, 奈良, 2008

⑫ 長田朋樹, 小倉裕司, 形本静夫, 内藤久士. 異なる低酸素濃度が超最大運動時の酸素借に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 818, 2008.

⑬ 佐賀典生, 内藤久士, 形本静夫. 温熱処置が中高齢者の筋損傷・筋痛発現に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 686, 2008.

⑭ 小倉裕司, 内藤久士, 柿木 亮, 関根紀子, 黒坂光寿, 明間立雄, 形本静夫. 筋萎縮が α -アクチニン-3 発現量に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 682, 2008.

⑮ 黒坂光寿, 内藤久士, 関根紀子, 小倉裕司, 小林生海, 柿木 亮, 形本静夫. 強度および時間の異なる持続的トレーニングが筋衛星細胞含量に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 681, 2008.

⑯ 関根紀子, 内藤久士, 小林裕幸, 小倉裕司, 佐賀典生, 柿木 亮, 黒坂光寿, 白石 稔, 形本静夫. マイクロ波温熱負荷によるヒト骨格筋温制御と熱ショックタンパク誘導. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 676, 2008.

⑰ 土居 進, 内藤久士, 形本静夫. アマチュアボクサーのボクシング中に受けるパンチが筋損傷に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 大分, 2008 体力科学 57(6): 676, 2008.

⑱ 長田朋樹, 形本静夫, 内藤久士, 小林裕幸. 異なる低酸素濃度が超最大運動時の無酸素的エネルギー代謝に及ぼす影響. 第12回高所トレーニング国際シンポジウム2008 東京 プログラム, 37, 2008. 10

⑲ 形本静夫, 長田朋樹, 小倉裕司, 小林裕幸, 綾部誠

也, 内丸 仁, 阿部良二, 福田公生, 田畑昭秀. 異なる低酸素濃度がスプリント系自転車選手の無酸素的能力に及ぼす影響. 第5回JISS スポーツ科学会議, 2008. 12

澤木 啓祐

Preventive Effect of Lactoferrin Intake on Anemia in Female Long Distance Runners: Natsue Koikawa, Isao Nagao-ka, Masahiro Yamaguchi, Hirokazu Hamano, Koji Yamauchi, and Keisuke Sawaki, *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* 72(4): 931-935, 2008, 5

鯉川の項参照

(学会発表)

女子長距離ランナーにおける走運動負荷後の WGH 摂取の効果: 平尾朋美, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松岡由記, 澤木啓祐, 日本陸上競技学会第7回大会: 35, 2008. 8

女子長距離ランナーの有酸素運動後に WGH を摂取することにより, 筋損傷抑制効果がみられた.

短距離競技者を対象としたトレーニング後の WGH 摂取の検討: 青木和浩, 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松岡由記, 佐久間和彦, 澤木啓祐, 日本陸上競技学会第7回大会: 34, 2008. 8

青木の項参照

シスチン・テアニンサプリメントの傾向摂取による陸上競技・長距離駅伝夏期強化合宿時の免疫状態への影響: 村上茂樹, 鯉川なつえ, 仲村 明, 青木和浩, 吉儀 宏, 澤木啓祐, 栗原重一, 大谷 勝, 日本臨床スポーツ医学会誌 16(4): 122, 2008. 11

100 k 競歩における WGH 摂取が筋組織障害等に及ぼす影響: 鯉川なつえ, 鈴木良雄, 松尾彰文, 青木和浩, 松岡由記, 長岡 功, 澤木啓祐, 日本臨床スポーツ医学会誌 16(4): 167, 2008. 11

100 k 競歩中の給水において WGH を摂取することで, 55 k 付近の血中グルタミン濃度が高値で推移し, CK も抑制されることが示唆された.

菅波 盛雄

Tricophyton tonsurans infection among Judo player who participated in the National Junior High School Judo Tor-

nament

Nobuyoshi Hirose, Morio Suganami, Yumi Shiraki,
Masataro Hiruma, Shigaku Ikeda

International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect
—12-13: 2007

廣瀬仲良の項 参照

Questionnaire survey for *Trichophyton tonsurans* infection in judo clubs registreted in the All Japan Judo Federation

Nobuyoshi Hirose, Morio Suganami, Yumi Shiraki,
Masataro Hiruma, Shigaku Ikeda, Taisuke Toamtsu, Tadashi
Murota, Kunio Ebine

International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect
—14-15: 2007

廣瀬仲良の項 参照

(学会発表)

大学柔道選手の競技内容と心理的因子の関連性

廣瀬仲良, 前川直也, 緒方和男, 江田茂行, 菅波盛雄, 渡
辺直勇, 渡辺涼子, 鈴木貴士, 坂本道人, 金丸雄介: 新潟
県体育学会平成19年度大会研究発表抄録: 2007

廣瀬仲良の項 参照

高校柔道部員における反応的攻撃性と部活動適応感および心理的成熟度との関連

廣瀬仲良, 山本真己, 田中純夫, 菅波盛雄: 日本スポーツ
心理学会 第34回大会号 24: 2007

田中純夫の項 参照

青年期から中年期にかけて剣道が視機能に及ぼす影響

中村 充, 菅波盛雄, 廣瀬仲良: 日本武道学会 第40回大
会号 22: 2007

中村 充の項 参照